

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 1 7 号

2 0 1 5 年

(2014年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

学部理念・目的・ポリシー

教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的スキルを教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

教育目的

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的スキルを修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

1. アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れ方針)

社会福祉学部は、地域の福祉課題に対応できる専門知識・援助技術を伴う実践能力を持ち、保健・医療・福祉などのさまざまな分野の関係者と連携できる社会福祉専門職の養成を目指しています。

したがって、社会福祉学部では、その実現にむけて、次のような人を求めています。

- ① 高等学校で学ぶ基本的な科目の学力を有する人
- ② コミュニケーション能力、協調性、豊かな人間性をそなえている人
- ③ 熱意・意欲をもって、社会福祉専門職を志す人

2. カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

社会福祉学部では、全学部に通ずる「共通教養教育科目」と学部独自の「専門教育科目」を置いている。

共通教養教育科目は、「リテラシー科目」(外国語科目、情報科目)「教養基礎科目」「課題別教養科目」「健康・スポーツ科目」から構成されている。「課題別教養科目」の中では、土佐学や看護師などの他の保健医療福祉専門職との連携を学ぶことができる。

専門教育科目ではソーシャルワーカーとして相談援助を実践し行動するための知識・技能を基礎から高度な専門性を持つところまで学び、社会福祉士の国家資格取得を目指す。

第一段階では社会福祉領域の基礎を学ぶ。ここでは、「共通教養教育科目」と並行して「基本科目」（社会福祉入門演習、現代社会と福祉など）を履修することで、人文・社会・自然科学にまたがり幅広い知識を身につけると同時に社会福祉実践を学ぶ上での基礎を学ぶ。

第二段階では相談援助の基礎から実践までを学ぶ。ここでは、「社会福祉制度科目」（社会保障論、児童・家庭福祉論など）「相談援助基礎科目」（相談援助の理論と方法、面接技法など）「からだところの理解科目」（人体の構造と機能及び疾病、精神医学など）を履修することで、相談援助に必要な知識・技能を学ぶ。さらに、「相談援助実践科目」（相談援助演習、相談援助実習など）を履修することで、これまで学んできた相談援助の実践能力を演習・実習を通して養成する。また、介護福祉を併せて学ぶために「介護福祉理解科目」（介護の基本、介護過程）を履修する。

第三段階では社会福祉領域の専門性を発展させる。ここでは、「地域・国際福祉科目」（地域福祉論、国際福祉論など）「社会復帰支援科目」（ケアマネジメント論、就労支援サービスなど）を履修することで、相談援助を行う上での視点を広げ専門性をさらに高める。また、介護福祉士となるために「介護福祉実践科目」、精神保健福祉士となるために「精神保健福祉実践科目」を学ぶことで、専門的な視点を広げる。

3つの段階を貫くものとして「総合科目」（社会調査の基礎、社会福祉専門演習など）を設置しており、調査・研究という手法を通して科学的視点から地域の福祉課題を発見して解決できる人材、地域における福祉の担い手となる人材を育成する。また、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野において必要な知識・技能を学ぶこともできる。

社会福祉士国家試験受験資格取得を前提として、希望者は介護福祉士国家試験受験資格もしくは精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる（取得人数制限有り）。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

社会福祉学部では、共通教養教育科目と社会福祉学部専門教育科目を合わせて124単位以上（必修科目38単位と選択科目56単位以上）履修することにより以下の能力や技術を修得した学生に、学士（社会福祉学）を授与する。

（1）社会福祉に関する様々な分野で活躍できるようにノーマライゼーションを基本的視点として人権擁護などの価値観を身につけていること。

（2）多様化・複雑化する人々の福祉ニーズに対応して、その自立と生活の質の向上を支援するための専門的な知識や技術を獲得していること。

（3）社会福祉専門職として地域における福祉課題を科学的視点で捉え、問題解決できる能力を身につけていること。

（4）保健・医療・福祉の専門職と連携して支援を行う能力と、対象者のみならず地域から国際社会までを視野に入れて活動できる能力を身につけていること。

目 次

I. 2014年度を振り返る

| | |
|----------------------|---|
| 1. 2014年度 社会福祉学部概括 | 1 |
| 2. 2014年度 社会福祉学部主要行事 | 3 |
| 3. 2014年度 社会福祉学部時間割 | 4 |

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

| | |
|---------------------|----|
| 社会福祉学部 教員一覧（2014年度） | 6 |
| 1. 杉 原 俊 二 | 8 |
| 2. 田 中 き よ む | 11 |
| 3. 長 澤 紀 美 子 | 15 |
| 4. 林 美 朗 | 17 |
| 5. 丸 山 裕 子 | 18 |
| 6. 宮 上 多 加 子 | 20 |
| 7. 黒 田 し づ え | 22 |
| 8. 後 藤 由 美 子 | 24 |
| 9. 鈴 木 孝 典 | 26 |
| 10. 西 内 章 | 29 |
| 11. 西 梅 幸 治 | 32 |
| 12. 山 村 靖 彦 | 34 |
| 13. 井 上 健 朗 | 36 |
| 14. 遠 山 真 世 | 39 |
| 15. 鳩 間 亜 紀 子 | 41 |
| 16. 福 間 隆 康 | 43 |
| 17. 三 好 弥 生 | 45 |
| 18. 稲 垣 佳 代 | 47 |
| 19. 加 藤 由 衣 | 49 |
| 20. 鈴 木 裕 介 | 51 |
| 21. 田 中 眞 希 | 53 |
| 22. 二 本 柳 覚 | 55 |
| 23. 橋 本 力 | 57 |

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

| | |
|----------------------------|----|
| 社会福祉学部 委員会体制一覧（2014年度） | 59 |
| 1. 教 務 委 員 会 | 60 |
| 2. 入 試 委 員 会 | 62 |
| 3. 学 生 委 員 会 | 64 |
| 4. 実 習 委 員 会 | 65 |
| 5. 就 職 委 員 会 | 67 |
| 6. 広 報 委 員 会 | 68 |
| 7. 健 康 長 寿 セ ン タ ー | 72 |
| 8. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 | 77 |
| 9. 総 務 ・ 予 算 委 員 会 | 79 |
| 10. 国 試 W G 活 動 報 告 | 81 |

Ⅳ. 学生を中心とした活動

| | |
|------------------------|----|
| 1. 国家試験に向けての取り組み | 83 |
| 2. 国 際 交 流 | 84 |
| 3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加 | 85 |
| 4. グローカルクラブ | 86 |
| 5. 太 鼓 部 | 87 |
| 6. 池 手 話 サ ー ク ル | 88 |
| 7. い け と べ ！ | 89 |
| 8. イケてるあいあい | 90 |
| 9. ハ モ ☆ イ ケ | 91 |
| 10. か ん き も ん | 92 |
| 11. ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 | 93 |

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2014年度）

編 集 後 記

I

2014年度を振り返る

2014年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

1. 教員体制

- ・2014年度は教員数23名(4月末に前山智教授退職、講師から准教授へ昇任1名)。
職位構成は教授6名、准教授6名、講師5名、助教6名。

2. 教育

- ・平成25年度に専門教育カリキュラムを検討し、カリキュラム構造の明確化、大学教育にふさわしい科目名称への変更、セメスター制に基づく科目の分割等を行い、平成26年度入学生より新カリキュラムを導入。履修モデルの検討。
- ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーについて、新年度の学部ガイダンス資料に掲載し周知。
- ・国家資格取得のための3コース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)に関するオリエンテーションを実施。
- ・8月から10月にかけて3回生と介護・社会福祉コースの4回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・介護・社会福祉コースの介護実習が終了し、12月に介護実習連絡協議会に引き続き介護実習報告を開催。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月19日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

3. 研究

- ・研究成果としては著書12編、論文25編、学会発表等36件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第64巻に5編投稿。
- ・科学研究費は平成26年度16件応募、10件採択で採択率62.5%、平成27年度は8件応募。
- ・科研費での他大学教員との共同研究は、研究代表者2名、研究分担者4名。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第16号を作成・公表。
- ・大学基準協会に提出する「高知県立大学点検・評価報告書」の原稿を分担執筆。
- ・学部懇談会の場を活用して、研究・教育面での学部FD研修会を年4回開催。
- ・教育面の学外研修では、「平成26年度日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロックセミナー」(2名)、「平成26年度日本精神保健福祉士養成校協会全国研修会」(3名)、「2014年度全国社会福祉教育セミナー」(3名)に参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修プログラムに教員1名が2回参加。

5. 入学生と2015年度入学試験

- ・4月に第17期生73名(県内出身34名、男子13名、社会人1名、留学生1名)が入学。
- ・推薦入試では、県内枠への志願者が31名(+4)で志願倍率1.6倍、全国枠は38名(+3)で3.8倍。出願者は昨年度より若干増加。
- ・一般入試では前期、後期日程とも出願者が減少し、前期日程が128名(-40)で志願倍率

2014 年度を振り返る

- 3.7倍、合格倍率2.8倍、後期日程が107名(-19)で志願倍率21.4倍、合格倍率12.0倍。
- ・私費外国人入試に5名の応募があり、1名合格。
- ・社会人入試には1名の応募があり、1名合格。

6. 卒業生と就職状況

- ・3月に第14期生74名(男子9名)が共学化後の1期生として卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職希望者72名の内72名(100%)の就職が3月末までに決定し、31名(43%)が県内に就職。
- ・就職先の内訳は、福祉施設28%、医療施設28%、社会福祉協議会13%、公務員等22%、一般企業10%。

7. 3 福祉士資格と国家試験

- ・国試対策WGが4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、社会福祉士養成校協会の模擬試験を実施。
- ・4回生が1月初旬に香北町で行ってきた国試合宿勉強会を、本年度はいの町の高知県立高知青少年の家で初めて実施。42名が参加。
- ・1月末に実施された第27回社会福祉士国家試験に70名受験して50名合格(合格率71.4% / 平均27.0%)、第17回精神保健福祉士国家試験に23名受験して22名合格(合格率95.7% / 平均61.3%、19名が社会福祉士国家試験にも合格)。
- ・既卒を含めた総合の合格率は、社会福祉士が64.0%で219校中15位、精神保健福祉士が88.9%で110校中7位。
- ・20名が介護福祉士資格を取得(13名が社会福祉士国家試験合格)し、その内の13名(65%)が介護職に就職。

8. 地域貢献活動

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月に掛けて開催、延べ107名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパスは2回実施し、8月3日(日)の参加者59名、8月31日(日)の参加者72名。8月2日に開催した「高校生のための公開講座」には県外からの7名を含め52名の高校生が参加。
- ・公立大学協会の協力を得て、第20回公立大学協会社会福祉学系部会連絡会を11月に池キャンパスで開催。本学の他10大学が参加。
- ・「高知医療センターと高知県立大学との包括的連携に関する協定書」に基づき、高知医療センターの地域医療連携室と連携事業(社会福祉学部教員によるコンサルテーション)を実施。
- ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。

9. 広報活動

- ・オープンキャンパスや進学相談会で配布する社会福祉学部の2014版パンフレット作成。
- ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の学生16名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
- ・学部ホームページにより学部行事や学生の活動等を迅速に発信。

10. 国際交流活動

- ・昨年度は政情不安定のために中止になったタイにおける国際ソーシャルワーク研修を2月末から3月上旬に実施。2回生5名が参加し、加藤助教が引率。

2014年度社会福祉学部の主要行事

| | | |
|-----|-------------|---|
| 4月 | 4日(金) | 入学式(県民文化ホール、17期生73名) |
| | 8日(火) | 第1回教授会 |
| | 8-9日(火-水) | 学生ガイダンス |
| | 10日(木) | 前期授業開始(～8月7日) |
| | 19日(土) | 新入生バスハイク(県立香北青少年の家) |
| | 28日(月) | 第2回教授会 |
| 5月 | 12日(月) | 第2回懇談会 |
| | 18日(日) | 学年間交流会 |
| | 19日(月) | 卒業研究構想発表会 |
| | 26日(月) | 第3回教授会 |
| 6月 | 2日(月) | 介護福祉実習(介護実習Ⅱ-①)報告会 |
| | 9日(月) | 第3回懇談会 |
| | 23日(月) | 第4回教授会 |
| 7月 | 14日(月) | 第4回懇談会/第1回FD研修会 |
| | 28日(月) | 第5回教授会 |
| | 31日(木) | 介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会 |
| 8月 | 2日(土) | 高校生のための公開講座 |
| | 3日(日) | オープンキャンパス |
| | 25日(月) | 第6回教授会 |
| 9月 | 22日(月) | 第7回教授会 |
| 10月 | 1日(月) | 後期授業開始(～2月18日) |
| | 6日(月) | 第5回懇談会 |
| | 4日/11日(土) | 第1回/第2回リカレント教育講座 |
| | 27日(月) | 第8回教授会 |
| | 29日(水) | 卒業研究中間発表会 |
| 11月 | 1日(土) | 第3回リカレント教育講座 |
| | 8日(土) | 第20回 公立大学協会 社会福祉学系部会連絡会 |
| | 10日(月) | 第6回懇談会/第2回FD研修会 |
| | 15-16日(土-日) | 推薦入学試験(県内31+全国38名受験) |
| | 25日(火) | 第9回教授会 |
| 12月 | 1日(月) | 介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅱ-②)報告会 |
| | 6日(土) | 第4回リカレント教育講座 |
| | 8日(月) | 第7回懇談会 |
| | 22日(金) | 第10回教授会 |
| 1月 | 6-8日(火-木) | 国家試験合宿勉強会(高知青少年の家:いの町) |
| | 26日(月) | 第11回教授会 |
| | 24-25日(土-日) | 第27回社会福祉士国家試験・第17回精神保健福祉士国家試験(70・23名受験) |
| 2月 | 9日(月) | 第8回懇談会/第3回FD研修会 |
| | 12日(木) | 相談援助実習報告会 |
| | 13日(金) | 卒業研究発表会/4回生を送る会 |
| | 25-26日(水-木) | 前期日程入学試験(122名受験)/私費外国人入試(4名受験) |
| | 23日(月) | 第12回教授会 |
| 3月 | 9日(月) | 第9回懇談会 |
| | 10(火) | 精神保健福祉援助実習連絡協議会/相談援助実習連絡協議会 |
| | 12日(木) | 後期日程入学試験(60名受験) |
| | 19日(木) | 卒業式(県民文化ホール、14期生74名卒業) |
| | 23日(月) | 第13回教授会 |

平成26年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

| 月 | 1時限 | | 2時限 | | 3時限 | | 4時限 | | 5時限 | |
|---|--|----------------------------|----------------------------------|--|------------------------|--------------------------------|----------------------------|-------------------------------------|----------|----------------------|
| | 教員 | 教室 | 教員 | 教室 | 教員 | 教室 | 教員 | 教室 | 教員 | 教室 |
| 1 | 中国語初級 I 社会福祉入門演習 英語コミュニケーションII A | A320 E103 E103 | 教員 (池) 通山・萩本・村上・根田 E103 | 英語コミュニケーションIA 大講義室 E103 | 地域学 大講義室 E103 | 三浦・團野・廣内 丸山 | 14:30~16:00 福祉研究法 丸山 | 16:10~17:40 (介護)生活支援技術IV F110 | 教員 | 教室 |
| 2 | 英語コミュニケーションII A | 大講義室 | 池 | 福祉研究法 | 丸山 | 丸山 | (介護)生活支援技術IV F110 | 田中眞・(川口) | 教員 | 教室 |
| 3 | 中国語中級 I 医療ソーシャルワーカー論 (介護)医療的ケア I | 大講義室 E102 | 鈴木裕 三好 | 福祉研究法 E102 | 丸山 後藤 | 山科・村上・加藤 山科・村上・加藤 都木希・梅本 | 福祉研究演習 I F110 | 担当教員 | 担当教員 | 掲示 |
| 4 | コミュニケーションワークショップ | E102 | 西内 | チームアプローチ | 西内 | 山科・村上・加藤 山科・村上・加藤 都木希・梅本 | 福祉研究演習 I F110 | 担当教員 | 担当教員 | 掲示 |
| 1 | 現代科学文化論 現代社会学 | A318 大講義室 | 一色 田中き | 社会学と人間 福祉入門 (玉里) | (玉里) | 廣内 | 大講義室 E103 | 名和 (池田) | 名和 一色 | D207 大講義室 |
| 2 | (介護)介護の基本 I (社会)相談援助演習 | 家政実習室 E102・E103 E103 | 黒田 西嶋・梅岡・福岡・遠山 | 福祉入門 (*1) 福祉援助入門 (*2) | 福岡 後藤 | 福岡 | E103 E110 | 井本 後藤 | 井本 | A318 大講義室 |
| 3 | 精神医学 (介護)相談援助演習 | D222 E102・E103 E103 | 林 鹿嶋・梅岡・福岡・遠山 | ケアマネジメント論 (介護)相談援助演習 | 井上 | 井上 | E102 E103 | 西梅ほか 田中眞 | 田中眞 | F110 F207 |
| 4 | 健康スポーツ科学 I (社福) (社会)相談援助の理論と方法 | E103 | 清原 (常行) | ケアプラン策定法 | 西内 | 西内 | F207 | 西梅ほか | 西梅ほか | E102・E103 E103 |
| 1 | 健康スポーツ科学 I (社福) (社会)相談援助の理論と方法 | 体育館 E103 | 田中き 西梅・加藤 | 日本国憲法 基礎生物学 | 岩倉 萩沼 | 岩倉 | D222 大講義室 | 岩倉 黒田 | 一色 | 大講義室 家政実習室 |
| 2 | (介護)相談援助の理論と方法 | E103 | 西梅・加藤 | (社会)相談援助の理論と方法 | 西梅・加藤 | 萩沼 | E103 | 岩倉 黒田 | 一色 | 大講義室 |
| 3 | 介護相談援助の理論と方法 | E103 | 西梅・加藤 | 精神保健福祉援助演習 I (介護)相談援助の理論と方法 | 鈴木孝 萩沼 | 鈴木孝 | F110 | 担当教員 | 担当教員 | 掲示 |
| 4 | ジェンダー学入門 | 大講義室 | (増田) | 精神保健福祉援助演習 (介護)相談援助の理論と方法 | 萩沼 萩沼 | 萩沼 | E102 | 担当教員 | 担当教員 | 掲示 |
| 1 | 英語コミュニケーションIII A (介護)介護過程 I | 大講義室 F110 | 掲示 宮上 | 人間の安全保障と国際協力 家族関係論 社会保障と生活 (※) (介護)生活支援技術 I | 團野 池添ほか 井上 後藤 | 團野 池添ほか 井上 後藤 | A320 大講義室 A318 | 團野 (門脇) 田中守 後藤 | 林 風間 | A318 大講義室 A306 |
| 2 | 女性福祉論 | E102 | 長澤 | 精神保健福祉援助演習 I (介護)生活支援技術 I | 林 | 林 | E102 | 橋本・三好 田中眞 | 西梅ほか | F110・介護実習室 E102 |
| 3 | 心理学理論と心理的支援 | 大講義室 | (川崎) | 人体の構造と機能及び疾病 (介護)医療的ケア I | 井上 | 三好 | D222 | 橋本・三好 | 西梅ほか | E102・E103 E103 |
| 4 | 介護心理学理論と心理的支援 | 大講義室 | (川崎) | 更生保護制度 (4-5月) | 宮本 | (宮本) | E103 | 橋本・三好 | 西梅ほか | E102 E103 |
| 1 | 集中講義 | 科目名等 | 教員 | 居住環境論 | 宇野 | 宇野 | A318 | 丸山 | 丸山 | F110 |
| 2 | 介護実習 I (*3) | 後藤・黒田・三好・田中眞 | 掲示 | (社会)地域福祉の理論と方法 | 山村 | 山村 | E103 | 黒田 | 黒田 | 家政実習室 |
| 3 | 地域福祉活動 I | 後藤・黒田・三好・田中眞 | 掲示 | 精神保健福祉論 (介護)地域福祉の理論と方法 | 鈴木孝 山村 | 鈴木孝 | E102 | 丸山 | 丸山 | 家政実習室 |
| 4 | 相談援助実習 | 田中き・福岡・二本柳 | 掲示 | 実践記録法 | 丸山 | 丸山 | F110 | 丸山 | 丸山 | F110 |
| 5 | 就労支援サービス | (野中) | 掲示 | | | | | | | |
| 6 | 社会福祉史 | (丸岡) | 掲示 | | | | | | | |

[備考]
*1 受講登録は、前期集中すること
*2 受講登録は火3すること(2クラスに分けて、隔週で火3・4授業)
*3 介護コース2回生のみ履修可
(※社会福祉学部学生履修不可)

平成26年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

| 月 | 1時限 | | 2時限 | | 3時限 | | 4時限 | | 5時限 | | | | | | |
|----------------------------|-------------------|--------------|--------------------------------|---------------------|--------------|--------------|-------------------------------|--------------|--------------|-------------|----|----|----------------|------------|------|
| | 8:40~10:10 | 教員 | 教室 | 10:20~11:50 | 教員 | 教室 | 12:50~14:20 | 教員 | 教室 | 14:30~16:00 | 教員 | 教室 | 16:10~17:40 | 教員 | 教室 |
| 月 | 英語コミュニケーションII B | 揭示 (池) | A318 D22-E102・ E103-E204 | 英語コミュニケーションI B | 揭示 | 教室 | 土佐の自然と暮らし | 廣内ほか | 大講義室 | | | | 日本現代史 | (清水) | A318 |
| | 社会福祉基礎演習 | 通山・藤本・井上・福垣 | | | | | | | | | | | 社会精神保健福祉ふれあい実習 | 鈴木孝・福垣・二本柳 | F110 |
| | 英語コミュニケーションII B | 揭示 | F110 | 英語コミュニケーションI B | 揭示 (池) | 大講義室 E103 | (社会)地域福祉の理論と方法 (介護)認知症の理解I | 山村 | E103 | F110 | | | 社会相談援助実習指導 | 担当教員 | |
| | (介護)こころとからだのしくみII | 宮上 | | 中国語中級II | 鈴木孝 | 大講義室 E103 | (介護)発達と老化の理解II (介護)面接技法 | 杉原 | F110 | F110 | | | 介護相談援助実習指導 | 担当教員 | |
| 3 | | | 精神保健福祉論 | | | | | | | | | | 福祉研究演習III | 担当教員 | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | 福祉研究演習III | 担当教員 | |
| 火 | 社会福祉論(※) | 鳩間 | A318 | 社会保健論II | 田中き | 大講義室 | 地球の科学 | 大村・一色 | A318 | | | | 健康スポーツ科学II(社福) | 清原 | 体育館 |
| | | | | (介護)介護総合演習II | 田中眞 | F110 | (社会)面接技法 | 杉原 | E103・E204 | | | | 健康スポーツ科学II(社福) | (宮本) | 体育館 |
| | 福祉行財政と福祉計画 | 田中き | 大講義室 | 事例研究法 | 西内 | E103 | (介護)発達と老化の理解II (介護)面接技法 | 宮上 | F110 | | | | 社会相談援助実習指導 | 西村ほか | |
| | (介護)こころとからだのしくみI | 三好 | E102 | 健康とヘルスプロモーション | 清原ほか 西内ほか | A318 大講義室 | 情報と社会 高齢者福祉論I | 鳩間 | A318 | | | | 自然災害と防災の科学 | 大村 | 大講義室 |
| 水 | 社会相談援助の理論と方法 | 西梅・加藤 | E103 | 専門職連携概論 | 西内ほか | A318 | 精神保健福祉論I | 鳩間 | A318 | | | | | | |
| | (介護)介護の基本III | 後藤 | F110 | (社会)相談援助の理論と方法 | 西梅・加藤 | E103 | 精神保健福祉援助技術総論 | 丸山 | E103 | | | | | | |
| | 精神科リハビリテーション学 | 二本柳 | F207 | (介護)介護の基本III | 後藤 | F110 | (介護)高齢者福祉論I | 鳩間 | E103 | | | | | | |
| | (介護)相談援助の理論と方法 | 西梅・加藤 | E103 | 精神保健福祉援助技術各論 | 福垣 | E102 | 福祉サービスの組織と経営 | 福間 | E102 | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 英語コミュニケーションIII B | 揭示 | F110 | 英語コミュニケーションI B | 揭示 | | 倫理学 日本文学 | 吉川 東原 | A306 A318 | | | | | | |
| | (介護)介護総合演習I | 田中眞 | | 英語コミュニケーションI B | 揭示 | | 虐待防止論 | 加藤・橋本 | E102 | | | | | | |
| | 英語コミュニケーションIII B | 揭示 | | 英語コミュニケーションI B | 揭示 | | ケアマネジメント演習 | 鈴木裕 | E103 | | | | | | |
| | | | | 国際福祉論 | 長澤 | E204 | | | | | | | | | |
| 金 | (介護)コミュニケーション技術 | 三好 | F110 | (介護)コミュニケーション技術 | 三好 | F110 | 住まいと健康と安全 | 宇野 | A318 | | | | | | |
| | | | | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 | 遠山 | E103 | 社会調査の基礎 | 福垣・橋本 | E102 | | | | | | |
| | | | | 精神保健福祉援助技術各論 | 福垣 | E102 | 精神科リハビリテーション学 (介護)医療的ケアII | 二本柳 黒田・三好 | F207 F110 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後 期 集 中 講 義 | 科目名等 | 教員 | 開講月日 | | | | | | | | | | | | |
| | 介護実習I(※) | 後藤・黒田・三好・田中眞 | 揭示 | | | | | | | | | | | | |
| | 介護実習II① | 後藤・黒田・三好・田中眞 | 揭示 | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉特別演習V | 加藤・鈴木裕 | 揭示 | | | | | | | | | | | | |
| 社会福祉特別演習VI | 二本柳・福垣 | 揭示 | | | | | | | | | | | | | |
| 社会福祉特別演習VII | 橋本 | 揭示 | | | | | | | | | | | | | |
| 相談援助の基礎と専門職 | (丸山・西内・西梅・加藤) | 揭示 | | | | | | | | | | | | | |
| 精神医学 | 林・(山崎) | 揭示 | | | | | | | | | | | | | |
| 精神保健学 | 林・(四方田) | 揭示 | | | | | | | | | | | | | |

[備考]
*1 介護コース1回生のみ履修可
(※)社会福祉学部学生履修不可

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)他

2014年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

| 職 位 | 氏 名 | 学 位 | 専 門 分 野 |
|-----|-----------|----------------------|-------------------------|
| 教 授 | 杉 原 俊 二 | 博 士（医 学） | 児 童 ・ 家 族 福 祉 論 |
| 教 授 | 田 中 きよむ | 修 士（経 済 学） | 福 祉 行 財 政 論 |
| 教 授 | 長 澤 紀 美 子 | 博 士（学 術） | 福 祉 政 策 論 / 国 際 比 較 研 究 |
| 教 授 | 林 美 朗 | 博 士（医 学） 博 士（文 学） | 精 神 医 学 |
| 教 授 | 丸 山 裕 子 | 博 士（社会福祉学） | 精 神 保 健 福 祉 論 |
| 教 授 | 宮 上 多 加 子 | 博 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 准教授 | 黒 田 しづえ | 修 士（人 間 科 学） | 介 護 福 祉 論 |
| 准教授 | 後 藤 由 美 子 | 修 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 准教授 | 鈴 木 孝 典 | 博 士（人 間 学） | 精 神 保 健 福 祉 論 |
| 准教授 | 西 内 章 | 博 士（臨床福祉学） | 社 会 福 祉 援 助 技 術 論 |
| 准教授 | 西 梅 幸 治 | 博 士（福祉社会学） | 社 会 福 祉 援 助 技 術 論 |
| 准教授 | 山 村 靖 彦 | 博 士（社会福祉学） | 地 域 福 祉 論 |
| 講 師 | 井 上 健 朗 | 修 士（福祉社会学） | 医 療 福 祉 論 |
| 講 師 | 遠 山 真 世 | 博 士（社会福祉学） | 障 害 者 福 祉 論 |
| 講 師 | 鳩 間 亜 紀 子 | 修 士（社会福祉学） | 高 齢 者 福 祉 論 |
| 講 師 | 福 間 隆 康 | 博 士（マネジメント） | 福 祉 サービスの組織と経営 |
| 講 師 | 三 好 弥 生 | 修 士（社 会 学） | 介 護 福 祉 論 |

教育研究活動報告書（教員一覧）

| | | | |
|-----|---------|---------------|---------------|
| 助 教 | 稲 垣 佳 代 | 修 士（社会福祉学） | 精神保健福祉援助技術論 |
| 助 教 | 加 藤 由 衣 | 博 士（福祉社会学） | 社会福祉援助技術論 |
| 助 教 | 鈴 木 裕 介 | 修 士（社会福祉学） | 医 療 福 祉 論 |
| 助 教 | 田 中 眞 希 | 修 士（社会福祉学） | 介 護 福 祉 論 |
| 助 教 | 二 本 柳 覚 | 修 士（福祉マネジメント） | 精神科リハビリテーション学 |
| 助 教 | 橋 本 力 | 博 士（学 術） | 高 齢 者 福 祉 論 |

○ 研究活動

（１）学術論文

（原著）※査読有り（１件）

1. 杉原俊二「自分史分析の変遷－心理的支援としての実践を振り返る－」『自分史研究会雑誌』2, 2-8. (2015年3月)

（研究ノート、事例報告など）（12件）

1. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（１）－学者S Kさんの経歴」『人間科学』50, 2-7. (2014年5月)
2. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（２）－学者S Kさんの修士課程時代（前篇）－」『人間科学』50, 8-13. (2014年5月)
3. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（３）－学者S Kさんの修士課程時代（後篇）－」『人間科学』51, 2-7. (2014年7月)
4. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（４）－学者S Kさんの短大講師への道（前篇）－」『人間科学』51, 8-13. (2014年7月)
5. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（５）－学者S Kさんの短大講師への道（後篇）－」『人間科学』52, 2-7. (2014年9月)
6. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（６）－学者S Kさんの短大助教授から退職へ－」『人間科学』52, 8-13. (2014年9月)
7. 杉原俊二「大学卒業後の5年間を語るテーマ分析（７）－学者S Kさんのその後と自分史分析の補足－」『人間科学』53, 2-7. (2014年11月)
8. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（12）－ある軍事研究者の語る沿岸警備隊（その２）－」『人間科学』53, 8-13. (2014年11月)
9. 杉原俊二「友人のこゝろを通して語られた自分史（１）－A牧師の家族と中学生時代まで－」『人間科学』54, 2-7. (2015年1月)
10. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（13）－ある軍事研究者の語る最近の海上保安庁事情－」『人間科学』54, 8-13. (2015年1月)
11. 杉原俊二「友人のこゝろを通して語られた自分史（２）－京都にこだわる人－」『人間科学』55, 2-7. (2015年3月)
12. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（14）－ある軍事研究者の語る海上救難隊（その２）－」『人間科学』55, 8-13. (2015年3月)

（２）学会発表等（８件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた児童虐待防止への支援－『虐待リスク』を抱える保護者支援法－」第38回K J法経験交流会（川喜田研究所）2014年5月24日
2. 杉原俊二「テーマ分析法を用いた『ひきこもり経験者』への支援法－友人の話を絡めた語り－」日本家族研究・家族療学会第31回神戸大会（神戸国際会議場）2014年7月18日
3. 杉原俊二「特別講演：臨床心理士同士のネットワーク作り－災害時支援も踏まえて－」平成26年度高知県臨床心理士会総会（高知大学医学部）2014年8月31日

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

4. 杉原俊二『『ひきこもり経験者』の支援法（2）－友人についての語りを中心とした支援と自分史分析－』第37回KJ法学会（川喜田研究所）2014年10月4日
5. 杉原俊二「自分史分析と支援－心理的支援法としての自分史－」（シンポジウム『自分史の現在と進展』）自分史研究会第1回学術大会（玉川大学）2014年12月21日
6. 杉原俊二「自分史分析と雑談療法の関連（1）－軍事研究家2人の語りを通して－」（呈示発表）自分史研究会第1回学術大会（玉川大学）2014年12月21日
7. 杉原俊二「自死遺族の支援－喪の儀式の事例から」（シンポジウム「平山正実先生追悼記念」）日本人間科学研究会第9回学術大会（聖学院大学）2015年1月11日
8. 杉原俊二「自分史分析（4テーマ分析法）の進め方（2）－危険回避法」日本人間科学研究会第8回学術大会（聖学院大学）2015年1月12日

○教育活動

- (1) 学部：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」（2年生）「相談援助実習指導」（2・3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4年生6名、3年生6名）
- (2) 大学院 人間生活学研究科（修士課程）：「児童福祉論」「児童福祉演習」「課題研究演習」（主指導4名）
- (3) 大学院 健康生活科学研究科（博士課程）：「児童・家族福祉論」「社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（主指導3名、副指導1名）

○委員会活動

- (1) 全学
「人間生活学研究科長」（部局長会議、教育研究審議会、大学院入試実施委員会、自己点検・評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、人事委員会、入学試験委員会、発明委員会、研究倫理審査委員会、大学院研究助成金審査委員会、奨学金返済免除学内選考委員会）
「紀要委員長」「動物実験委員」
- (2) 学部
「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「社会福祉研究倫理審査委員」

○社会的活動

- (1) 社会活動
高知県社会福祉審議会副会長、高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員
- (2) 学会など
日本人間科学研究会 常務理事、理事長代行（12月まで）、KJ法学会 運営委員・編集委員、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）
- (3) 講演など
 1. 平成26年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論Ⅰ」（8月8日）「児童福祉論Ⅱ」（9月5日）各3時間。
 2. 高知県立城山高等学校講演「わかりやすい児童・家庭福祉」（9月3日：50分）。
 3. 平成26年度地域型保育事業人材育成研修会（認定研修）「子ども家庭福祉（社会福祉関連）」「子ども家庭福祉（児童福祉関連）」（9月21日：各2時間）、「子どもの安全と環境（養護原理関連）」（9月27日：4時間）。
 4. 高知県難病連ピアカウンセリング研修（10月12日、11月30日、1月18日）

○総合評価と課題

4月から人間生活学研究科長となり、その役職に関する業務が一気に増えた。また、認証評価を受ける準備や教員評価などこれまでになかった業務もあり、それらに振り回されることも多かった。学部の仕事に手が回らないことも多かったが、多くの先生や職員の方に助けられて、何とか1年目を終えることができた。

教育に関しては赴任6年目になり、70人定員の第二期生にして男女共学の第一期生である第十四期生を卒業させることができた。授業での工夫として、講義科目についてはこれまでの学生の意見を取り入れ、1回ごとのレジュメの配布や、受講生同士（2～4名）討論を入れるなど、授業の方法をがらりと変えた。また、例年通り学生の意見聴取に務めた。実習も事前・事後指導を含めて無事に終わった。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせでおこなった。役職についたため会議の時間と回数がこれまで以上に増え、そのしわ寄せがゼミ学生に及んだのではないかと危惧している。卒論や就職指導の時間は確保できたが、十分とは言えない。4年生6名中、4名が福祉施設や病院、2名が地方公務員と自分たちが志望していた先へ就職できたことが幸いである。

研究に関しては、本年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた児童虐待防止への支援－『虐待リスク』を抱える保護者支援法－」が採択された。研究者としては喜ばしい限りであるが、時間がない上に10月から11月にかけて体調を崩し、調査に出かけることができなかった。予定していた調査の半分強しかできなかったことが残念でならない。来年度はこの遅れを取り戻す必要がある。

委員会等については、研究科長の業務として全学委員会への参加が増えた。その分、学部での負担は減らしてもらっていた。週単位で見れば学期期間中も授業の時間よりも会議の時間が多いということも起きていた。大学院の改組があり、規程等の変更が追いつかず、後追いで規程等の変更をすることがあり、気が抜けない状況が続いていた。

大学院の教育として、博士前期課程4名、博士後期課程3名の学生を指導していた。ただ、土・日曜日がつぶれることも多く、先述の調査もおこなうとほとんど休みがとれなかった。研究と並行して児童・家族福祉の実践家として「ワークライフバランス」についての啓蒙をしている立場上、自己警鐘を鳴らすべきであると考えている。

社会的な活動については、6年目になるとじわりじわりと増えてきた。地域貢献として高知県社会福祉審議会の副会長、高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員にもなり会議に出席した。さらに難病連から「ピアカウンセリング」の連続講義を担当した。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、ここ数年、所属学会以外の学会からも研究論文の査読や講演依頼が来るようになった。研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、一昨年末に日本人間科学研究会の理事長が亡くなり、その事務を臨時で引き受けることになった。幸い、1月から新理事長も決まり無難に切り抜けることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

研究科長の仕事は、もう一年間つづけなければならない。多くの方々のご助力をお願いします。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○ 研究活動

（1）著書（単著）

- ・田中きよむ『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』中央法規出版、2014年12月
著書（共著）
- ・森裕之・平岡和久・荒井文昭・山崎洋介・藤井えりの・田中きよむ・遠藤宏一・霜田博史・鶴田廣巳『新しい時代の地方自治像と財政』自治体研究社、2014年5月、
第5章（125～162頁）

（2）論説（共著）

- ・田中きよむ・水谷利亮・玉里恵美子・霜田博史「集落活動センターを拠点とする高知型地域づくり」高知大学経済学会『高知論叢』第109号、2014年10月（19～40頁）

（3）報告

- ・田中きよむ「地域教育研究センターモデル事業報告—社会福祉学部の取り組み—」『高知県立大学地域連携事業報告集』第1号、2014年12月（44～57頁）
- ・田中きよむ「地域福祉（活動）計画と住民主体のまち・むらづくり—高知県内各市町村の取り組み—（下）」『ふまにすむす』第26号、2015年3月（32～55頁）

（4）学会報告

- ・田中きよむ「社会保障・税一体改革と高齢者支援システム」四国財政学会第57回研究会（香川大学経済学部交友会館）2014年5月

○ 教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 低所得者に対する支援と生活保護制度
5. 保健医療福祉論
6. 社会保障と看護

（共通教育）

1. 現代社会論

（2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 課題研究演習

○ 委員会活動

- ・（学部）人事委員会委員、自己点検評価委員会委員、高知県立大学社会福祉研究倫理審査委員会委員長
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）、地域教育研究センター地域課題研究部会部会長、COC ワーキング委員、土佐市連携プロジェクト委員、

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知県地域年金事業運営調整会議 委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知市生活困窮者支援検討部会委員
- ・社会福祉法人来島会南海学園身体拘束ゼロ委員会委員
- ・社会福祉法人高知福社会・すずめ福社会・ファミーユ高知第三者委員

（講演等）

- ・安芸市地域福祉計画（伊尾木地区・畑山地区・井ノ口地区）住民座談会アドバイザー（2014年4月）
- ・四万十町地域福祉活動計画推進委員会アドバイザー（2014年4月）
- ・津野町白石地区講演「住民主体の支え合いの地域づくり—津野町の居場所づくりと地域づくりに向けて—」（2014年5月）
- ・香美市民生委員児童委員協議会講演「地域福祉と人権」（2014年5月）
- ・愛媛県市町村社会福祉協議会局長会議研修講師「地域社会の支援課題と地域福祉の方向—生活困窮者・高齢者・障害者・子どもの共生をめざして—」（2014年6月）
- ・高知県社会保障推進協議会講演「社会保障・税一体改革と医療・介護総合法案」（2014年6月）
- ・高知県介護支援専門員更新研修講師「人格の尊重及び権利擁護」（2014年6月）
- ・ワーカーズコープ・パネルディスカッション助言者「居場所づくり・地域づくり・仕事おこし」（2014年6月）
- ・高知県年金調整会議研修講師「社会保障・税一体改革」（2014年7月）
- ・全国障害者問題研究会高知支部講演「社会保障制度改革と障害者福祉」（2014年7月）
- ・香美市保育園長会研修講師「子ども・子育て新制度と高知の保育」（2014年7月）
- ・鳥取県ソーシャルワーカーズデイ講演「生活困窮者支援と地域づくり」（2014年7月）
- ・高知県東部ブロック主任児童委員研修「個別支援・地域支援と主任児童委員の役割」（2014年7月）
- ・香美市大柘中学校職員研修講師「高知の福祉と福祉教育」（2014年8月）
- ・高知県保育運動連絡会講演「子ども・子育て新制度の動向と課題」（2014年8月）
- ・佐川町地域福祉計画推進委員会「佐川みんなでまちづくり委員会」アドバイザー（2014年9月）
- ・高知市社会福祉協議会市民後見人養成講座講師（2014年9月）
- ・四国保育団体合同研究集会講師「子ども・子育て新制度の動向と課題」（2014年9月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・平成福祉専門学校特別講義「地域課題と地域福祉」（2014年10月）
- ・こうちネットホップ主催フォーラム「生活困窮者支援のネットワークづくり」コーディネーター（2014年10月）
- ・一般高齢者施策評価事業（中芸広域連合）アドバイザー（2014年10月）
- ・土佐清水市地域包括ケア講演（土佐清水市三崎地区）「地域の見守りやつながりを活かした共生のまちづくり」（2014年11月）
- ・高知県司法書士会・社会福祉士会研修講師「障害者の権利条約について」（2014年11月）
- ・四国ホームレス支援交流会報告「生活困窮者支援と地域づくりーこうちネットホップの取り組みー」（2014年11月）
- ・高知県年金調整会議研修講師「社会保障制度改革のゆくえ」（2014年11月）
- ・こうちネットホップ主催講演会報告「生活困窮者の支援と地域づくりーネットホップの取り組みー」（2014年11月）
- ・須崎市民生委員児童委員協議会研修講師「地域での見守り事例検討ワークショップ」（2014年12月）
- ・土佐清水市地域包括ケア講演（土佐清水市下ノ加江地区）「地域の見守りやつながりを活かした共生のまちづくり」（2014年12月）
- ・第4回地域活性化フォーラム「集落活動センターを軸とする地域づくり」コーディネーター（2014年12月）
- ・土佐清水市社会福祉大会 コーディネーター（2014年12月）
- ・奈半利町（車瀬・中里・百石地区）地域福祉講演「住民主体の共生型地域づくりー個別支援・居場所づくり・まちづくりー」（2015年1月）
- ・高知医療生協理事会研修講師「地域包括ケアと医療介護総合確保法」（2015年1月）
- ・四国ブロック市町村社会福祉協議会研究協議会パネルディスカッション報告「住民主体の共生型地域づくりー高知県の取り組みー」（2015年2月）
- ・全日本年金者組合四国ブロック講演「社会保障制度改革の動向と構造ー年金・医療・介護」（2015年2月）
- ・奈半利町（車瀬・中里・百石地区）地域福祉計画アドバイザー（2015年2月）
- ・高知県自治労連退職者の会講演「アベノミクスと社会保障」（2015年2月）
- ・高知県社会就労センター助言者「障害者の就労と社会参加」（2015年2月）
- ・タウンモビリティ・フォーラムコーディネーター（2015年2月）
- ・渭南病院主催地域包括ケア・パネルディスカッション（土佐清水市）コーディネーター（2015年2月）
- ・奈半利町（車瀬・中里・百石地区）地域福祉計画アドバイザー（2015年3月）
- ・津野町地域福祉講演「住民主体の共生型地域づくりー小地域見守り活動から地域づくりへー」（2015年3月）
- ・大月町地域福祉講演「住民主体の共生型地域づくりー小地域見守りから地域づくりへ」（2015年3月）
- ・松山市社会福祉協議会講演「地域の絆で『住み続けたいまち』をつくるー見守りから居場所作り、地域作りへー」（2015年3月）
- ・一般高齢者施策評価事業（中芸広域連合）アドバイザー「新しい介護予防の仕組みづくり」（2015年3月）

○総合評価と課題

- ・ 研究に関しては、社会保障制度論の研究面では、二点の出版化という形でとりまとめた。2015年度以降は、A. センの福祉経済理論をふまえた体系化に着手したい。地域福祉の研究面では、中山間地域における地域支援・地域づくりに関する論説・報告の形でとりまとめた。2015年度からは、集落活動センターなど、小さな拠点を軸とする地域支援・地域づくりに焦点をあてた調査研究を進めたい。
- ・ 教育面では、講義に関しては、社会保障論や公的扶助論、福祉行財政と福祉計画など、社会福祉士等の国家資格試験に関する授業ということもあるせいか、おおむね熱心な学生の受講態度は評価される。ただ、それらの科目に関する基礎知識や理解力、応用力は、学期末試験の成績評価による限り十分とは言えず、わかりやすい授業内容に向けた一層の工夫と、よりきめ細やかな理解度評価が必要であると考えている。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実問題に答えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させて深め、卒論作成ができるように配慮した指導を進めてきた。2015年度4回生も共同研究の意向が一部に見られることから、学生相互間の問題意識の共有化と調整に配慮した指導を工夫する必要がある。
- ・ 社会的活動は、今年度も地域福祉に関連して社会福祉協議会や行政、各種団体、住民組織等との協力関係を持たせていただいたが、とくに学生が地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題や地域の固有価値に向き合ってもらえるような関係づくりを意識的に進めた。今後、地域と大学の共生化を進める教育改革、地域教育研究センター地域課題研究部会の地域連携事業、学生による主体的な「立志社中」等の地域活動、自治体と大学の包括協定などの動向も視野に入れながら、学生と共に積極的な地域アプローチを進め、持続的な「域学共生関係」の形成に努めたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（１）著書（教科書）（２件）

- ・ 長澤紀美子「第３章 国連・障害者の権利条約と障害者権利保障の歴史」１節「国連・障害者権利条約」p60-67.
- ・ 長澤紀美子「年表 1 障害者問題を巡る国際的な動き」p. 238.
峰島厚、木全和巳、荻原康一・編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 [第3版] - 障害者福祉制度・障害者福祉サービス』弘文堂(2015)

（２）学会発表・研究発表（２件）

・ 社会政策学会第128回春季大会・保健医療福祉部会分科会（2014年6月1日（日）中央大学）における座長・コーディネイター

テーマ：「障害者雇用・就労における『合理的配慮』－『合理的配慮』の獲得が困難な人々に対する配慮のあり方について－」（報告者：遠山真世（高知県立大学）、山村りつ（日本大学）、磯野博（静岡福祉医療専門学校））

・ 長澤紀美子「災害看護グローバルリーダー養成プログラム（DNGL）から考える支援者養成～災害ソーシャルワーク教育の検討」日本社会事業大学第23回環太平洋社会福祉セミナー2014」（於：日本社会事業大学）2014年12月10日

（３）競争的資金等の獲得状況（１件）

- ・ 科学研究費補助金 基盤（C）（課題番号：26502010）「ケイパビリティ概念に基づく認知症高齢者ケアのアウトカム評価尺度の開発」（H26年度～28年度）（研究代表者）

○教育活動

（１）学部

- ・ 講義科目「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「国際福祉論」「女性福祉論」
- ・ 実習・演習科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」

「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者 5 名、「福祉研究演習Ⅲ」受講者 6 名

（２）大学院人間生活学研究科

- ・ 「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）／「国際福祉論」（集中講義）
- ・ 「課題研究演習」（主指導）担当：修士課程 3 名（M1 生 2 名：M2 生 1 名（休学中））
- ・ 副指導：修士課程 6 名（M1 生 3 名、M2 生 3 名）、博士課程 3 名（D1 生 1 名、D2 生 2 名）

○委員会活動

【全学】全学国際交流委員長、全学 FD 委員

【学部】学部社会福祉研究倫理審査委員、学部教務委員、学部選出 FD 委員

【大学院】人間生活学研究科（博士後期課程）学務委員・大学院選出国際交流委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知市行政改革推進委員、高知市指定管理者審査委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員

（2）学会

- ・社会政策学会春季企画委員（保健医療福祉部会選出）

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

- ・看護学部神原咲子准教授、李賢珠非常勤講師と共に、高知県国際交流課、高知県国際交流協会、南国市国際交流協会、高知大学等と協力し、「在住外国人のための減災コミュニケーションツールの開発」の研究を進めた。

（2）教育活動について

1) 学部教育

- ・「女性福祉論」の中で、県女性相談支援センター、こうち男女共同参画センター「ソール」への訪問や、県地域福祉部児童家庭課職員・母子自立支援員、DV被害者等支援団体による研修を通して、女性の生活課題を体験的に理解する機会を設けた。
- ・「国際福祉論」において、「多文化ソーシャルワーク」に関する演習や難民支援などの教材により、多様性理解を深める内容を強化した。
- ・1回生必修科目「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」では、学生の個人発表・グループ発表及びリアクション・ペーパーへの回答を通じて、双方向的な授業の展開に努めた。

2) 大学院教育

- ・「研究方法論Ⅱ」では個別の研究テーマに合わせた研究法を紹介すると共に、データベースを活用した英文文献レビューの方法を指導した。
- ・「国際福祉論」では視聴覚教材を活用しながら、ケアの評価研究や政策の国際的動向を概観し、日本との比較の視点の涵養を図った。

（3）学内業務について

1) 全学国際交流委員長として、学部選出国際交流委員（鳩間講師）ら学部教員と協力し、以下の学部の国際交流活動を推進した。

- ・①イタリア・ベネツィア大学、中国・台湾からの交換留学生の池デイにおいて、学生主体の交流企画を開催、留学生との交流機会を設けた。②私費外国人枠留学生に対し、母語を理解する講師による日本語授業の保障など、学部の学習環境・支援体制の整備を進めた。③加藤助教の引率のもと「タイ国際ソーシャルワーク研修」を実施し、学部FD研修会(12/8)で社会福祉学部の国際交流の方針について提案し、教員間での合意を図った。

2) 全学FD委員として、学部長・総務委員長・教務委員長ら学部教員の協力を得て、学部懇談会の場を活用して、研究・教育に関わる学部FD研修を年4回実施した。

○教育活動（前期のみ）

- ・担当科目
 - 人体の構造と機能及び疾病
 - 保健医療サービス
 - 福祉研究演習
 - 地域福祉活動

○委員会活動（前期のみ）

- ・人権委員会委員長
- ・健康管理センター運営委員

※平成 26 年度後期より、病気休暇中。

丸山 裕子

Hiroko MARUYAMA

○研究活動

1 研究会参加

エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

2 論文等

丸山裕子（2014）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのチーム・アセスメント支援ツールの研究」課題番号:21530629 平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書 全 50 頁

3 競争的資金の獲得

(1) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究、課題番号 24653152、平成 24-26 年度）

研究代表者：丸山裕子

研究課題名:「ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの構成要素と形成過程に関する基礎的研究」

(2) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究、課題番号 25590132、平成 25-27 年度）

研究代表者：中村佐織

研究課題名:「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの検討」
研究分担者

○教育活動

- ・心の健康（オムニバス）
- ・福祉研究法
- ・実践記録法
- ・スーパービジョン
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習
- ・精神保健福祉援助実習指導 I
- ・精神保健福祉ふれあい実習

○委員会活動

1 全学

- ・総合情報センター運営委員（図書部会）

2 学部

- ・紀要委員
- ・学生委員（第 16 期生学年担当）
- ・人権委員（林教授の代わりとして後期から）

3 大学院

- ・人権委員（後期からは学部と兼務）

○社会的活動

1 講演等

高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座 講師「複雑困難事例へのチーム・アプローチ再考-社会福祉専門職間の連携を中心に」12月6日

2 桃山学院大学社会学部社会福祉学科非常勤講師（ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習ⅡA・ⅡB、社会福祉学演習Ⅳ）

○総合評価及び今後の課題

着任初年度である本年度は、これまで担当講義の一部として扱うことはあったものの新規に担当する科目（福祉研究法、実践記録法、スーパービジョン）が前期に集中し、学生の傾向や理解度を探りつつの授業準備に時間とエネルギーを費やした。また、前任校への非常勤として週1回（前泊）の出校もあり、前期は目の前の授業準備で精一杯の毎日だった。特に、2年次必修の福祉研究法では、社会福祉の専門科目の学習が積みあがっていない2回生に研究の必要性と方法の概略についてどのように伝えたらよいか頭を悩ませた。研究過程をグループで体験し、プレゼンテーションを行い、その成果を学生が相互にコメントし、評価する、結果を次週まとめてフィードバックするという形で進めた。他の授業においても、学生の実習体験を素材にしたグループ学習やDVDなどの視覚教材の活用など、わかりやすい授業というよりは「学生が参加し、主体的に考えてもらう授業」を常にこころがけたつもりである。

研究活動については、上述したように授業準備が最優先の1年であり、足踏み状態である。研究最終年度であった科学研究費（挑戦的萌芽）「ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの構成要素と形成過程に関する基礎的研究」に関しては、結果として研究期間の延長を申請することとなった。

次年度には、研究（上記科研とも連動する）のもう1本の柱であるツールを活用した新たな実践方法の開発を実用化に向け深化させた次なる段階へとチャレンジしたいと考え、科学研究費を申請した。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1）論文

- ・田中眞希・宮上多加子（2014）離職者対象の介護人材養成事業の課題—事業利用学生と行政の立場から—『介護福祉教育』19（2），69-80.
- ・宮上多加子・田中眞希（2015）介護雇用プログラム生の学びと仕事に対する思い—面接調査による3年間の変化の分析—『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64，1-16.
- ・田中眞希・宮上多加子（2015）准看護師養成校で学ぶ社会人の学習や仕事に関する認識と職業経験の影響『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64，61-72.

（2）学会発表

- ・山本まち子・黒田しづえ・宮上多加子・ほか：看護現場における KOMI 記録システム活用の現状と展望，ナイチンゲール KOMI ケア学会第 5 回学術集会（名古屋），2014 年 6 月.
- ・田中眞希・宮上多加子：准看護師養成校で学ぶ社会人学生のキャリアと仕事に関する認識—介護職等の経験がある社会人学生に焦点を当てて—，第 22 回日本介護福祉学会大会（東京），2014 年 10 月.

○教育活動

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース2回生(前期)の授業である. ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と、介護過程の概要について講義した.

（2）「こころとからだのしくみⅡ」「発達と老化の理解Ⅱ」

いずれも介護福祉コース2回生(後期)の授業である. 今年度より「往復記録」用紙を使用し、各授業終了時に学生が感想や質問等を記入して、次回授業時に質問に答える方法を採用した. この方法はおおむね好評であり、教員も学生の理解度や疑問点が把握しやすいと思われる.

（3）「福祉研究演習Ⅲ」

今年度からの新たな試みとして、卒業研究をグループ研究で指導した. 4回生の受講者は4名であったため、2名ずつ2グループとなった. なお、4回生の卒業研究とゼミの活動内容については、ゼミ記録として冊子にまとめた.

[大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

（1）「介護福祉論」

今年度より15回の開講となったため、5回(集中1日)毎にテーマを設定して講義を行った. 具体的な内容として、介護福祉に関係した理論や研究論文の紹介、認知症介護をめぐる動向と課題、終末期ケアに関する課題等を概観し、介護福祉学が果たす役割と課題に関する検討を行った.

（2）論文指導

正指導教員としてM1生2名、M2生1名、副指導教員としてM2生3名を担当した.

教育研究活動報告書（宮上 多加子）

研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[大学院（博士後期課程）]

(1) 「介護支援学」（健康生活科学研究科）・「介護福祉学」（人生活学研究科）

受講者はそれぞれ1名であったため、受講者の研究テーマとスケジュールを考慮しながら開講した。前半のテーマは「変化」、後半は「研究倫理」とした。

(2) 論文指導

正指導教員として院生3名、副指導教員として院生8名を担当した。健康生活科学研究科（博士後期課程）を満期退学した1名を大学院に研究員として受け入れ、平成26年9月に第一次審査博士論文提出、その後の審査会を経て平成27年3月に博士（社会福祉学）が授与された。

○委員会活動

[全学]

社会福祉学部長

部局長会議／教育研究審議会／入試委員会／研究倫理審査委員会

[学部]

学部総務・予算委員会／学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

学務委員

○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員

日常生活自立支援事業契約締結審査会委員

ナイチンゲール KOMI ケア学会理事

○総合評価と今後の課題

今年度は前山智教授の後任として社会福祉学部長の任を受け、学部運営に携わることになりました。平成27年度に大学基準協会による外部評価を受けるため、平成26年度は受審準備のための様々な検討と、「点検・評価報告書」の作成業務に時間を費やした1年でした。また、教員評価の試行段階を経て、平成26年度の実績による教員評価本格実施に至る一連の過程においても、多くの事務作業が必要な年でした。その他、専任教員の病気休業に伴う様々な対応や、教員採用等の人事関係について等、学部長としての業務を経験し、教員体制の充実や学部全体としての発展を考える機会が多かったと感じます。

研究面では、科学研究費助成事業に応募した研究が採択され、学部内教員1名と県外の短大教員1名の研究チームとして介護福祉士養成教育および准看護師養成教育についての調査を開始することができました。

今後の課題として、学部定員増に伴う体制が整ってきた学部の教育をどのように充実させていくか、また大学が掲げる「域学共生」や「地方の公立大学としての役割」について、具体的な学部の方策を検討していくことがあげられると思います。

黒田 しづえ

Shidue KURODA

○研究活動

(1) 論文

なし

(2) 学会発表

なし

(3) 研究資金の獲得状況

特定非営利法人ナイチンゲール KOMI ケア学会研究助成制度「ナイチンゲール KOMI ケア記録システムを促すための教材開発」(研究代表者)(平成 25 年 11 月～平成 26 年 12 月)

○教育活動

講義の概要

1. 「介護の基本 I」
2. 「介護過程 II」
3. 「介護過程 III」
4. 「介護福祉実習 I」
5. 「介護福祉実習 II-①」
6. 「介護福祉実習 II-②」
7. 「福祉研究演習 III」

○委員会活動

学部：介護コース主担当、学生委員会、実習委員会、4 回生学年担当

○社会活動

- ・須崎くろしお病院 院内研修会「看護職員の看護過程展開に関する指導」講師
- ・社会福祉法人 高知県社会福祉協議会「福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会」委員
- ・社会福祉法人 高知県社会福祉協議会「第 3 回コレスバ in 高知」企画委員会 委員
- ・同協会「高知の福祉をよりよくカエル実践発表会」第 3 回コレスバ福祉 in 高知審査員
- ・同協会「ノーリフト検討会」委員
- ・日本介護福祉士養成施設協会「今後の介護福祉士養成教育と養成施設のあり方に関する検討会」作業部会委員

○その他

なし

○総合評価と今後の課題

介護福祉課程コースとしては、昨年初めての卒業生を世に送り出すことができました。残念ながら、17 名全員のダブル資格取得とはなりませんでしたが、介護現場や相談援助現場、行政や社会福祉協議会、病院へと就職先は多様であり、選択肢の広がりを実感してい

ます。そして、本年も座学や演習、介護福祉実習や就職面での活動にもコースの教員一丸となって取り組んで参りました。また、今年は、新たに私費留学生在がコースに加わり留学生、担当教員共に初めての介護福祉実習に臨みました。その結果、学生間の思いやりや寛容さが発揮できる機会を得た年であったと感じています。

介護福祉課程コースは、開講6年目を迎え充実期に差し掛かるものと考えています。「質の良い介護福祉士」を目指して、歩んでほしいと思っています。

14期生の学年担当としては、14期生全員が卒業できたことを何よりも嬉しく思います。また、就職に関しても取り組みが早く、無事全員の就職活動に結果を残すことが出来ました。70名と大所帯になって2年目ということもあり、当初は心配もありましたが、無事に4年間を終了することが出来、学生個人々の努力の成果に安堵しています。それぞれの選んだ道を大切に歩んでほしいと願っています。

○ 5年間を振り返って

本学に着任し、生まれて初めて鶯の声を聞きながら授業をするという経験をしました。何とも言えずのどかで暖かく、心が柔らかくなるのを覚えました。また、学生達の反応も素直で穏やかなことが多く、一種のカルチャーショックでした。

入学準備に始まり、ガイダンス、前期開講と年間の慌ただしい日々の中で、学部教員間の協力体制の良さにも驚きました。教員相互の配慮や学生へのまなざしの優しさは、学生からの信頼感になって戻ってくると同時に、教員間の信頼関係にも相乗効果をもたらしているものと感じることが出来ました。この良き伝統が、今後も長く続いていくことを願っています。

介護コースに関しては、初年度のユニフォーム決定に時間を要しました。業者の提示する案はどれも固定観念でカチカチに縛られており、介護コースの先生方と「見た目も大事！」「体操着では、利用者に失礼よね！」などと話し合いながら決定したことも良い思い出になっています。2年目に入ると、初めての「介護実習」が前期授業のスタートに合わせて開始されました。介護実習巡回教員は、全員が県外から来た者で地理不案内でした。その上、学生1名につき実習施設は、10か所前後と、今では無謀と思える状況での実習でした。コースの先生方の研究室には、高知市内、県内、本学周辺の3種類の地図が最も見やすい位置にべったりと張られていました。学生も県外生が多く、巡回教員ともども必死でした。3年目には、介護コースの授業は総仕上げの段階に入ります。ポロポロ涙を流して実習していた学生も、必死で巡回と講義を行っていた教員も、まさに「チーム介護」として結束し、充実した日々を思い出し感極まる時間が訪れました。とにかく大変だったけど、ここまで来た！「手塩に掛ける」とはこのことかと実感した瞬間でした。4年目には、介護コースもフルメンバーとなり、先輩たちから後輩への助言だけではなく教員サポートもできるようになり、頼もしさや今後へ向けての嬉しさがこみあげてくるようになると同時に、多くの先生方の励ましや、協力によって、無事に就職・卒業に至ることが出来ました。

14期生の学年担当としては、70余名の学生に大きな事故もなく4年間を過ごすことが出来たことを何よりうれしく思っています。学生数が増加した分、人間関係の幅が広がりそこから多くの経験や学び合いがあり、今後の学生個人々の人生に良い力になることを願っています。

5年間、本当にありがとうございました。皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

後藤 由美子

Yumiko GOTOH

○研究活動

(1) 論文

なし

(2) 学会発表

- ・後藤由美子「介護施設における外国人介護士就労の現状と課題」

日本介護福祉学会大会（第22回）自主企画（日本社会事業大学）、2014年10月4日

○教育活動

[学部担当科目]

1. 介護の基本Ⅲ
2. 生活支援技術Ⅰ
3. 福祉研究演習Ⅰ
4. 福祉研究演習Ⅱ
5. 福祉研究演習Ⅲ
6. 認知症の理解Ⅰ
7. 認知症の理解Ⅱ
8. 介護技術
9. 介護実習Ⅰ
10. 介護実習Ⅱ①
11. 介護実習Ⅱ②

[他学部]

1. 教職課程「介護等体験」事前学習

○委員会活動

[全学]

- ・産官学研究部会員
- ・キャリア支援部会員
- ・入試監査委員
- ・学外連携災害対応部会員長

[学部]

- ・実習委員

○社会的活動

- ・高知県介護福祉士会監事
- ・日本認知症ケア学会代議員
- ・介護実習指導者講習会講師
- ・介護職員初任者研修講師
- ・こうち介護の日2014「プチリラクゼーション」高知市中央公園（11月）

○総合評価及び今後の課題

(1) 教育活動

介護福祉士養成課程は今年度が5年目となり、新たにカリキュラムが編成されました。介護コースの学生も他コース学生同様に3年次に相談援助実習を行なうようにするため、介護実習Ⅰを1年次に実施することになりましたが、時間割上の制約もあり介護福祉関連科目が十分履修できなかつたという課題が生じました。しかし、早い段階で介護現場を体験することで今後の修学につながると思われます。今年度より担当科目となった「認知症の理解」では、講義のほか映像を活用しました。認知症の人をより理解するには、介護実習の体験をもとに映像を用いることで具体的な支援を理解できるのではないかと考えています。

他コースを対象とした科目「介護技術」は受講生を2グループに分け、隔週に2コマ続きの授業を実施しました。演習を含む内容のため2コマ続きの授業は、ゆとりを持って行なうことになり効果があったと思います。

今年度のキャリア支援部会の教育活動として、1回生を対象として医療分野と障がい分野の現場職員によるキャリア教育の機会を設定し実施しました。いずれも卒業後の就労イメージが明確になり高い評価を得ることができました。また、2～4回生を対象にこれまで要望が多かった福祉系公務員の講座を2回実施しました。今後も学生のニーズを把握し、既卒者を含め具体的なキャリア支援について検討していきたいと思えます。

(2) 研究活動

研究面では、県内の介護施設でEPAに基づき来日し、介護福祉士の資格を取得した人たちの就労先を訪問し、本人及び施設職員にインタビューを行ないました。また、介護施設の介護職員に対する教育研究の取り組みに参加し、介護職員の現任教育に関する課題について検討することができました。新しいケアツールの導入や業務改善に向けて介護職員自ら考案するという介護福祉人材育成に関する研究を進めていきたいと考えています。

(3) その他

高知県介護福祉士会活動として今年度も介護実習指導者研修等に関わりました。介護福祉士養成課程で重要な位置づけとされる介護実習をよりよいものとするために介護現場の人たちとの意見交換、状況等について学ぶ機会を得ました。今後も介護福祉に関する課題を中心に介護福祉人材の育成に参画し、地域社会に貢献できるよう努力していきたいと思えます。

○研究活動

(1) 学術論文

- ・岩崎香、大谷京子、大塚淳子、木下了丞、鈴木孝典、田崎琢二、竹中秀彦、肥田裕久、松本すみ子、宮本めぐみ「精神科医療機関における精神保健福祉士の業務実態に関する研究(第2報)」『平成25年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業(精神障害分野)分担研究報告書』2014.5、pp.7-41.
- ・鈴木孝典「相談支援従事者初任者研修の評価を予測する研修受講者の特性・高知県における相談支援従事者養成研修システムの構築に関する研究(第1報)」『鴨台社会福祉学論集』No24、2015.2、pp.76-85.

(2) 著書

- ・鈴木孝典「精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)(第2版)』中央法規出版、2015.2、pp.165-203.
- ・鈴木孝典「相談援助にかかわる行政組織と民間組織」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規出版、2015.2、pp.205-208.
- ・鈴木孝典「暗黙知から形式知を紡ぐ研究」岩崎香、北本佳子編『「社会福祉」実践と研究への新たな挑戦』新泉社、2015.3、pp.147-163.

(3) 学会発表等

- ・岩崎香、鈴木孝典、大塚淳子、松本すみ子、大谷京子、石川到覚「医療チームにおける精神保健福祉士の機能・役割に関する研究-多職種を対象としたグループインタビューを通して-」一般社団法人日本精神保健福祉学会第3回学術研究集会(名古屋)、2014年6月27日

(4) 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金(基盤(C)、課題番号:25380758、平成25年度-27年度)
研究代表者:鈴木孝典
研究課題名:「精神障害者グループホーム選択指標の開発的研究」
- ・平成26年度厚生労働科学研究補助金(障害者対策総合研究事業(精神障害分野))『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の普及に関する研究』(課題番号:H26-精神-一般-006)、研究協力者
研究代表者:石川到覚
研究分担者:岩崎香

○教育活動

(1) 講義

[学部]

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 「精神保健福祉論」 | 5. 「福祉研究演習Ⅰ」 |
| 2. 「精神保健福祉援助実習」 | 6. 「福祉研究演習Ⅱ」 |
| 3. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」 | 7. 「福祉研究演習Ⅲ」 |
| 4. 「心の健康」 | |

[大学院]

1. 「研究方法論Ⅱ」
2. 「精神保健福祉論」

(2) 講義以外

1. 実習支援

精神保健福祉援助実習の配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 競争的研究資金獲得のための支援

科学研究費補助金獲得のための研究計画調書の作成に係る助言、指導を社会福祉学部
の助教1名に対して行った。

○委員会活動等

(1) 学部

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 精神・社会福祉コース主担当 | 4. 入試委員 |
| 2. 実習委員 | 5. 就職委員 |
| 3. 情報処理委員 | |

(2) 大学院

1. 人間生活学研究科前期課程学務委員

(3) 全学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員

○社会的活動

(1) 委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 副会長（役員:2008年4月～、副会長:2014年5月～）
2. 高知県精神保健福祉士協会 新人研修委員会 委員（2008年4月～）
3. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
4. 高知県自立支援協議会 副会長（2009年2月～、副会長 2014年7月～）
5. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
6. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
7. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
8. 高知県自殺対策啓発事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会 委員（2013年3月～）
9. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～）
10. 高知市自立支援協議会 定例会 委員（2014年4月～）
11. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
12. 高知県社会福祉協議会「退職前世代の生きがい研究」検討会 委員（2013年7月～）
13. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 企画委員（2013年4月～2014年3月）
14. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 事務局次長（2012年6月～）
15. 精神保健福祉士試験委員（2014年4月～）

(2) 講演等

1. 平成26年度高知県相談支援従事者追加研修「障害者ケアマネジメント概論」講師（7月24日、1月29日）
2. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（2月28日（東京）、3月8日（京都））

(3) 学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、教育内容の評価と改善を実施した。具体的には、昨年度の教育内容の評価を踏まえて、教材や授業の構成を変更した。くわえて、リアクシオンペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による授業評価ポートフォリオを作成し、教育内容の課題抽出に努めた。また、今年度は、精神・社会福祉コースの教員と協働し、「実習の動機と課題」、及び「実習計画書」を学生が相互にピア・レビューし、配属実習に向けた動機と課題の整理及び学習計画の整理を主体的に進めるための教育ツールとプログラムを開発し、試行した。また、当該ツールとプログラムを他の精神保健福祉士養成校に配信し、他校での活用法や学習効果に係る情報を収集し、その評価を客観的に得るための準備を行った。

来年度は、今年度に引き続き、授業評価ポートフォリオを活用し、PDCAサイクルによる教育内容の質の管理に努めるとともに、他の精神保健福祉士養成校との協働により、効果的な教育ツール、プログラムの開発研究にも注力したい。

（２）研究活動について

今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働科学研究補助金を受けた精神保健福祉士の実践評価に係る調査研究に研究協力者の立場で関与し、その研究成果を施策に反映させることができた。あわせて、この活動を通じて学外の研究者及び臨床家との共同研究や実践に係る情報交流を深めることができた。来年度も引き続き、他の研究者との共同研究を行い、精神保健福祉士の活動の評価を進めたい。

また、科学研究費補助金（基盤(C)）に基づく研究として、グループホームの選択を支援する指標開発に向けた研究を展開した。具体的には、グループホーム評価支援ツールの普及に努めるとともに、支援ツールによってグループホーム入居者の生活機能と支援者による評価に係る情報を得ることができた。来年度は、科学研究費補助の最後の年度となることから、グループホーム選択指標の試案をまとめ、フィールドテストを実施したい。

（３）学内業務及び社会貢献活動について

まず、学内業務では、学部情報処理部会員として、橋本助教及び二本柳助教と協働して情報処理機材の保全を図るとともに、高知工科大学との情報システムの統合に伴う更新作業を実施した。また、入試実施委員として、鳩間講師、井上講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。今年度の入試では、近年の本学部への出願者の減少を抑えることができなかった。そのため、来年度は、学部の他の委員会とも連携して高校訪問などの入試広報を試行し、出願者の獲得に向けた戦略的な対策を検討したい。

つぎに、社会貢献活動では、昨年度から引き続き、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協議会に委員の立場で参加し、障害者施策の評価に携わるとともに、障害者に係る行政計画の策定に参画した。くわえて、昨年度と同様に、高知県自立支援協議会、及び高知市自立支援協議会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に係る課題に取り組んだ。来年度も今年度と同様に、地域相談支援体制の変化をとらえつつ、今年度の活動を発展させたい。また、障害者の地域移行・地域定着、障害者虐待や強度行動障害など、地域における障害者福祉の新たな課題に対応できる人材の養成研修プログラムの開発にも注力したい。

さらに、今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働省の補助金事業である精神保健福祉実習演習担当教員講習会に企画委員及び講師の立場で関わり、実習演習担当教員の育成に寄与するとともに、教員を受講生とし講義を行うことで、自らの教育技能について他学の教員から評価を受ける機会を得た。来年度は、受講生の評価を参考に、教育技能の更なる研鑽に励みたい。

西内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 学会発表

- 1) 小栄住まゆ子・西内章他「独立型社会福祉士の開業システムの構築をめぐる現状と課題」日本ソーシャルワーク学会（日本福祉大学 2014 年 6 月）.

2. 科研費

- 1) (基盤研究(C))西内章『ソーシャルワークにおける ICT 活用モデルの構築』
※2014～2017 年度
- 2) (基盤研究(C)・分担研究)御前由美子・西内章他『独立型社会福祉士の特性と現状にもとづくより効果的なスーパービジョン方法の開発』
※2014～2017 年度

3. 研究会

- 1) ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った.

○ 教育活動

[共通教育科目]

- ① 「専門職連携概論」

[学部専門科目]

- ① 「事例研究法」
- ② 「チームアプローチ」
- ③ 「ケアプラン策定法」
- ④ 「相談援助の基盤と専門職」
- ⑤ 「相談援助演習」
- ⑥ 「相談援助実習指導」
- ⑦ 「相談援助実習」
- ⑧ 「福祉研究演習Ⅰ」
- ⑨ 「福祉研究演習Ⅱ」
- ⑩ 「福祉研究演習Ⅲ」

[大学院人間生活学研究科]

- ① 高齢者福祉論
- ② 研究方法論Ⅱ

○ 委員会活動

- ① 学部教務委員長
- ② 学部実習委員長
- ③ 自己点検評価委員

○ 社会的活動

[委員等]

教育研究活動報告書（西内 章）

- ・日本社会福祉士養成校協会「国家試験合格支援委員会」委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・津野町地域包括支援センター・津野町地域密着型サービス運営協議会委員
- ・高知県社会福祉協議会生きがい・健康づくり推進協議会委員

[研修会講師・講演等]

- ・2014年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」、「社会福祉援助演習」担当（8月22日）
- ・2014年度高知県相談支援従事者研修講師「面接技術・対人支援技術」担当（9月19日、1月30日）
- ・2014年度高知県生活困窮者自立相談支援研修会講師「自立相談支援事業における専門的な面接スキルについて」（1月21日）
- ・津野町住民福祉課研修講師「高齢者及び障害者虐待の基礎知識と虐待対応、行政の役割について」（2月19日）

○総合評価と課題

1. 教育活動

共通教養科目では、「専門職連携概論」を看護学部山中福子講師、健康栄養学部廣内智子講師とともにIPW（inter-professional work）の基礎的理解を中心に授業を実施した。また、社会福祉士指定科目である「相談援助基盤と専門職」についても、愛知東邦大学の丸岡利則教授、社会福祉学部の西梅幸治准教授、加藤由衣助教とともに実施した。「事例研究法」、「チームアプローチ」、「ケアプラン策定法」は、授業目標の具体的な提示を授業内でくり返し行い、科目の関連性を理解してもらうことを重視している。次年度も引き続き、リアクションペーパーの内容を検討し、継続的な評価・授業内容の改善を行いたい。ゼミでは、4回生6名の卒業論文指導を行った。

2. 研究活動

研究活動では、2014年度新たに科研費を獲得することができた。この研究は、博士学位論文の成果をふまえた研究である。具体的には、ICTを活用してソーシャルワークを展開するモデルを構築するために、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発の基礎となる文献研究に取り組んだ。

3. 委員会活動

委員会活動では、学部教務委員長として、認証評価書類作成、新カリキュラム4年間の科目移行スケジュールの確認、履修モデルの作成、CAP制の導入などに、教務委員会のメンバーとともに日々取り組んだ1年であった。実習委員長としては、実習委員会の開催、実験実習費予算の取りまとめ、助教ミーティングへの参加等を行った。

4. 社会的活動

社会的活動では、高知県内における生活困窮者、高齢者福祉、児童福祉のソーシャルワークについて研修を行ったり、ソーシャルワーカーの方々が直面している課題について協議することができた。

5. 今後の課題

教育活動や委員会活動も重要であるが、それと同様に2015年度は研究活動にも積極的

教育研究活動報告書（西内 章）

に取り組んでいきたい。その成果を教育活動に還元できるように尽力したいと考えている。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（１）研究会参加

- 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- 2) スクールソーシャルワーク学習会への参加

（２）論文等

論文

- 1) 西梅幸治（2015）「ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践の構成概念－ストレングスとパワーに着目して－」『高知県立大学紀要』64, 17-32.
- 2) 中村佐織・西梅幸治・加藤由衣（2015）「地域包括支援センターにおけるアセスメント方法の構築－ソーシャルワーク支援ツールの検討－」『福祉社会研究』15, 75-92.

○教育活動

（１）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「相談援助演習」
- ・「福祉研究演習ⅠL」
- ・「福祉研究演習ⅡL」
- ・「福祉研究演習ⅢL」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」

（２）クラブ活動

- ・グローバルクラブ顧問
- ・手話サークル顧問

○委員会活動

全学

- ・健康管理センター委員会

学部

- ・実習委員会（社士主担当）
- ・国試対策WG（長）
- ・総務委員会
- ・日本社会福祉士養成校協会担当

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロック 運営委員
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人支援」（2014年6月7日）
- ・臨床心理士に対するコンサルテーション（2014年8月12日）

- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会ブロック別研修会 講師「利用者の心理に着目した高齢者支援—ソーシャルワークの視点から—」（2014年10月18日）
- ・高知県公立学校事務研究会香長支部第2回研修会 講師「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割」（2014年12月16日）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが時間を割き、継続的に研究を行った。特に科研費を取得し、ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究に着手することができた。またアセスメントについて、地域包括支援センターを取り上げ、その指標に関する研究成果を公表することができた。

（2）教育活動について

講義・演習：

授業では、パワーポイントで作成したレジメを作成・配付し、シラバスに従い学生が理解できるように工夫した。そして毎回の授業開始時には、前回の復習やシンク・ペア・シェア、ホップ・ステップ・クラスなどの手法を取り入れ、知識の定着を図った。またレジメの他にも、DVDなどの視覚教材や演習事例の活用により、学生の理解度を高めるように努めた。授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントを毎回実施し、それに応じて授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した展開の修得や国試対策も見据えた工夫を重ねていきたい。

実習指導：

実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度は実習巡回時にソーシャルマナーや実習に対する積極性の点で不十分な学生がいた。そのため実習後のスーパービジョン過程でその点からのふり返りをすすめ、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、6名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は、個別およびゼミ学生相互の意見交換をとおした指導を行ったことにより、個々に応じた成果を出すことができた。

（3）委員会活動・社会的活動について

本年度はまず、相談援助実習（社会福祉士）主担当として、相談援助実習指導、相談援助実習、相談援助演習の効果・効率的、および統合的な授業運営に先生方の協力を得ながら努めることができたのではないかと思う。また国試対策ワーキンググループ長としては、前年度に課題となった4回生自らが受験対策を行うための支援システムについて少しずつではあるが、整備できてきていると感じている。

社会的活動に関しては、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザーとして7年目であり、本学と高知県教育委員会の連携に関して一定の役割を担うことができたと思う。また要約筆記者の養成や他職種へのソーシャルワーク理解についても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

○研究活動

1. 書籍監修

- ・山村靖彦ほか「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2015』メディックメディア、2014. 4、pp. 203-235.

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・地域福祉の理論と方法 ・コミュニティソーシャルワーク
- ・相談援助演習 ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習 ・福祉研究演習Ⅰ
- ・福祉研究演習Ⅱ ・福祉研究演習Ⅲ
- ・地域福祉活動Ⅰ〇

2. 大学院担当科目

- ・研究方法論Ⅱ ・地域福祉論
- ・副指導教員としてM1生3名を担当した。

3. 学生活動

- ・立志社中「活輝」顧問

○委員会活動

1. 全学

- ・地域教育研究センター 生涯学習部会（副委員長）
- ・COCワーキンググループ

2. 学部

- ・総務・予算委員会（委員長）
- ・社会福祉研究倫理審査委員会
- ・外部評価

3. 大学院

- ・広報担当

○社会的活動

1. 委員等

- ・高知市地域福祉計画推進協議会（委員長）
- ・高知市社会福祉協議会 地区社協活動助成事業審査会（委員長）
- ・高知県社会福祉協議会 福祉教育の新たな展開に向けた検討委員会委員
- ・南国ネットワーク連絡会委員
- ・佐川町加茂地区 加茂の里づくり会

教育研究活動報告書（山村 靖彦）

- ・高知市社会福祉協議会「地域支援事例検討会」スーパーバイザー
（4月－3月 計12回）
- 2. 学外非常勤講師
 - ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校「生活保護制度」担当（全15回）
- 3. 講演等
 - ・「平成26年度 四国地区社会福祉士合同研修会」助言者「地域支援」（11月30日）
- 4. その他
 - ・高知小津高等学校「大学出前講義」（6月26日）

○総合評価及び今後の課題

教育活動では、講義面において本年度は特に、①「資料の作成」と②「視聴覚教材の利用」において工夫を重ねた。資料は毎回A4サイズで概ね4枚用意し、テキストの補足や関連する新聞等の記事、統計等を掲載した。視聴覚教材については、主にテレビのドキュメント番組等を編集し、視聴したあとの解説および学生によるディスカッションを通じて考察を深めた。次年度は上記に加え、③「話し方」について具体的な工夫を凝らしたいと考えている。講義の方針・あり方については、適宜行う「授業評価アンケート」の結果をみながら、柔軟かつ謙虚に対応していきたい。また、卒論指導では7名を担当した。学生個人の状況に合わせ、きめ細かく指導するように努めたことで、個々の論文の質を高めることができたと思っている。大学院での講義（「研究方法論Ⅱ」、「地域福祉論」）ならびに副指導教員については、初めての経験でややプレッシャーを感じたが、何とか担うことができた。今後も努力し、大学院教育に寄与していきたい。さらに本年度は、立志社中「活輝」の顧問も担った。「域学共生」の一端を担った意義は大きいと考える。

委員会等の活動は全学2つ、学部3つ、大学院1つを担った。総務・予算委員長としては、特に予算の適切な執行、学部環境の整備に努めた。また、11月に本学で開催された「公大協社会福祉学系部会連絡会」については、準備段階からかなりの負担を感じたが、大きな課題を残すことなく無事終了できたことにまずは安堵している。総務・予算委員長については次年度も責任感を持って全うしたいと考えている。本年度は「COCワーキンググループ」のメンバーであったが、来年度は「COCプラスワーキンググループ」として議論を重ねることになる。大学のあり方を探りながら貢献していきたいと考える。

なお、「教育活動」、「研究活動」、「委員会活動」、「社会活動」等については、それぞれを結びつけて捉え、自身の研究や学部生・院生への還元を意識しながら取り組んでいくことが課題であると考えている。

○研究活動

1. 論文

- ①井上健朗（2014）「都市部特定機能病院での退院支援の実際」『日本在宅医療学会雑誌』日本在宅医学会 第16巻第1号, pp134-136.
- ②井上健朗・藤井しのぶ（2014）「特定妊婦に対するチーム・アプローチとソーシャルワーカーによる援助」『ソーシャルワーク研究』相川書房 Vol140.No. 4, pp55-63.

2. 著書

- ①石原ゆきえ 井上健朗『多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整』日総研出版 2014 4月

3. 編集代表

- ①井上健朗『補訂版 相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』新日本法規出版 2014 7月

4. その他

共同研究

- ①「小児慢性疾患患者及びその家族への支援の在り方に関する基礎研究」厚生労働省難治性疾患克服事業（代表 明治学院大学 茨木尚子）

○教育活動

1. 学部教育

「社会福祉入門演習」「相談援助演習」「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」
「医療福祉論」「ケアマネジメント論」「社会福祉基礎演習」「医療保健サービス論」
「福祉研究演習Ⅰ」

2. 他学部

「生活と社会保障」（看護学部） 「生活と社会保障」（文化学部）

3. 他大学

- 1) 目白大学 「チーム医療演習（オムニバス）」 2014 10月
- 2) 高知学園短期大学 「慢性的な疾患を持つ障害者の生活支援」 2014 11月

4. リカレント・一般向け教育

- 1) 「病院から見た地域包括ケア」高知県立大学健康長寿センター事業社会福祉学部リカレント講座 2014
- 2) 「出前講義」高知県立丸の内高校「総合的な学習の時間」講師 2014 12月

5. 現任者教育

- 1) 「多職連携で行う退院支援・調整研修」講師 日総研（東京その他）2015
- 2) 「福祉連携」『医療福祉連携講習会』講師 医療マネジメント学会（東京）2014 9月
- 3) 「医療ソーシャルワーカーが行う難病患者就労支援研修」（東京都）2014 12月
- 4) 「医療ソーシャルワーカー研修会」日本病院協会主催（東京都）2015 2月
- 5) 「医療から見た地域包括ケア」講師 高知県介護ケア研究会（高知）2015 2月
- 6) 「鳴門市在宅医療ネットワーク構築支援事業勉強会」講師（徳島県）2015 2月

6. FD研修

- 1) 徳島大学「授業設計ワークショップ」（徳島）2014 6月
- 2) 愛媛大学「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」（愛媛）2015 11月

ローチとソーシャルワーカーによる援助」として誌上報告することができた。医療センターとの共同研究作業は今後も推進されるように貢献したい。

交通事故被害者生活支援に関するフィールドについては、今期は四国圏域の独立行政法人自動車事故対策機構などとの関係作りが大きな収穫であったが、調査などに入るのは今後となる。引き続き日本医療社会福祉協会の交通事故被害者生活支援のプロジェクトのコアメンバーとして活動する。こうした活動などへの参画を通して研究の成果を生みだしてゆくことが次期の課題と考えている。

3. 社会活動について

教育のところでも触れたが、公益社団法人日本医療社会福祉協会での活動を軸に、「退院支援・多職種連携」「交通事故被害者支援」「就労支援」などのテーマで現任者教育の活動を充実して行うことができた。また研究フィールドにも関連するが、患者・家族会へのサポート活動として、日本 ALS 協会愛媛県支部勉強会、独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が行っている交通事故による介護料制度受給者交流会への講師としての参加など四国圏域の当事者グループとつながりができたことは豊かな財産となった。

健康長寿センター運営を通して様々な社会活動の場を得た。「医療との付き合い方」をテーマに体験型セミナーを土佐山地区で開催し、住民の方々や土佐山診療所、健康福祉センターのスタッフの方々との出会いを得た。土佐市連携事業においては地域ケア会議の運営について看護学部・健康栄養学部の先生達とともに考える機会を得ている。この事業は次年度も継続されるので、事業、研究と両面での成果を求めていきたい。

遠山 真世

Masayo TOHYAMA

○研究活動

（1）論文・書評

- ・遠山真世（2014）「障害者権利条約と障害者の雇用・就労政策における課題」『賃金と社会保障』1615・1616 合併号，pp. 4-11.
- ・遠山真世（2014）「勝又和夫さんの生きざまと障害者の雇用・就労支援の展開」『社会福祉研究』第 119 号，p126.

（2）著書

- ・遠山真世・二本柳覚・鈴木裕介（2014）『これならわかるスッキリ図解障害者総合支援法』翔泳社.
- ・遠山真世（2014）「就労支援 NPO」「障害者権利条約と雇用・就労法制」「女性の就労と自立」日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学事典』丸善出版.
- ・遠山真世（2015）「障害者の福祉と労働」福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉士シリーズ 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第 3 版』弘文堂，pp. 143-151.

（3）学会発表

- ・遠山真世（2014）「『障害を理由とした差別』および『合理的配慮』をめぐる問題整理と論点抽出」社会政策学会第 128 回大会テーマ別分科会第 2（中央大学）.

（4）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号 26780314，平成 26 年度－平成 28 年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：「重度障害者の就労支援システムの再構築に向けた実証研究」

○教育活動

（1）担当科目

- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・社会福祉基礎演習
- ・福祉研究演習 I
- ・相談援助実習
- ・社会福祉入門演習
- ・障害者に対する支援と障害者自立支援制度
- ・福祉研究演習 II

（2）学生支援

- ・17 期生学年担当
- ・池吹奏楽団顧問

○委員会活動

（1）全学

- ・広報専門委員会
- ・学生委員会

（2）学部

- ・実習委員会
- ・国試対策ワーキンググループ
- ・学生委員会
- ・広報委員会
- ・福祉実習支援室長

○社会的活動

- ・高知県サービス管理責任者等研修（オブザーバー）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

本年度は科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組み、学会発表や論文執筆を行った。また、障害者総合支援法を解説した著書を出版し、学生等からもわかりやすいと好評であった。

1回生学年担当の業務に加え、二度にわたるオープンキャンパスの開催もあり、研究活動を予定通りに進めることができなかった。次年度は、障害者就労支援事業に関する聞き取り調査に着手したい。

（2）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深められるよう努めた。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

1回生の学年担当としては、全体の雰囲気やまとまりができるよう心がけつつ、個別の相談・指導を通じて関係づくりを行った。今後も学生ひとりひとりの成長を支えるとともに、全体での活動時にはまとまって協力できるようサポートしたい。

（3）委員会活動・社会活動等について

本年度は昨年度につづき、全学広報委員としてオープンキャンパスの学部プログラムを運営した。また新たに学生委員長として学生支援に携わり、学部・学生課・健康管理センターとの連携にも努めた。国試対策ワーキンググループでは、国試対策講座や国試合宿に参加するとともに、勉強法等について個別相談も行った。福祉実習支援室長としては、福祉実習支援室の業務が円滑に行われるよう調整を行った。

学外では高知県サービス管理責任者等研修会に参加し、障害者福祉の現場職員の方々や県職員の方々との関わりをつくることができた。次年度も継続して携わるとともに、社会活動の幅をさらに広げていきたい。

鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

○ 研究活動

[論文]

- ・ 鳩間亜紀子(2015)「訪問介護員のかかわり方に着目した事故発生場面の類型化」『老年社会科学』36(4), 395-408.
- ・ 鳩間亜紀子(2015)「デイサービス及び訪問介護における高齢者の移送に関する課題の探索」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64, 51-59.

[その他]

- ・ 日本介護福祉学会事典編纂委員会編(2014)『介護福祉学事典』ミネルヴァ書房. 執筆担当

[競争的資金等の獲得状況]

- ・ 日本学術振興会平成 26 年度科学研究費助成事業, 基盤研究(C), 「在宅における高齢者の移送をめぐる事故の実態」研究代表者

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

- ・ 社会福祉論(後期:池キャンパス開講)

[学部科目]

- ・ 高齢者福祉論 I
- ・ 相談援助演習
- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助実習
- ・ 福祉研究演習 I
- ・ 福祉研究演習 II
- ・ 福祉研究演習 III

[その他]

- ・ 2014 年度全学 FD 委員会主催第 2 回研修会「大学ユニバーサル化の時代の FD の意義とは?」参加. 2014 年 10 月 3 日
- ・ 学外授業実施(山口県 社会福祉法人夢のみずうみ村 山口デイサービスセンター 見学, 参加学生 6 名)2014 年 10 月 24 日
- ・ 高齢者福祉論 I ゲストスピーカーによる講演の実施(藤原るか氏「『介護』のある暮らしをイメージする」)2014 年 10 月 29 日
- ・ 2014 年度全国社会福祉教育セミナー(日本福祉大学)参加. 2014 年 11 月 1, 2 日

○ 委員会活動

[全学]

- ・ 国際交流委員
- ・ 入試実施委員

[学部]

- ・ 実習委員
- ・ 学生委員(第 15 期生学年担当)

○ 社会的活動

- ・ 高知学園短期大学看護学科 非常勤講師（「看護と福祉」担当）
- ・ 平成 26 年度介護福祉士国家試験委員
- ・ 日本社会福祉学会第 62 回秋季大会 演題査読

○ 総合評価及び今後の課題

教育活動については、ミニテストの実施、グループワーク等によって学生の理解を促す工夫に努めた。「高齢者福祉論Ⅰ」ではゲストスピーカーによる講演の実施、また「福祉研究演習」の一環として先進的な施設へ見学することにより、福祉現場への関心や理解を促すことができたと思われる。今後も学生の理解を高めるため講義資料の見直し、予習復習を促すこと、達成度が低い学生への具体的な対応等について継続的に検討したい。

学年担当である 15 期生は 3 回生となり、介護コースの実習に加え相談援助実習を無事終えることができた。定期的に行っている個別面談以外では、15 期生全員と顔を合わせることも少なくなってきたが、就職に関する個別の相談は徐々に増えている。橋本助教及びゼミ担当の先生方と協力し、学生がキャリアデザインを意識して就職活動に取り組めるよう対応していきたい。

全学委員会は昨年度同様、入試実施委員会と国際交流委員会を担当した。文化学部留学生の受け入れイベント企画の他、学部留学生の個別支援が課題であったが無事に年度を終えることができた。「留学生向け日本語授業」をご担当頂いた、非常勤講師の池純子先生には大変お世話になった。入試は、社会人入試や私費留学生入試の実施が定着しつつある。実施前後の作業等、学部全体で効率的に遂行できるよう努力したい。

研究活動については、課題であった訪問介護事故の調査データに関する分析結果を発表することができた。科学研究費補助金による研究も昨年度から継続しており、前期は計画通り資料収集に時間を割くことができたが、後期に入ってから業務が重なり、研究に充てる時間の確保は困難だった。また、特に介護現場や実務者へのヒアリング等の機会をもつことができなかった。今後の研究活動のバランスについては検討したい。

福 間 隆 康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

（1）論文

1. 福間隆康「自律的職務における能力と組織風土のモデレート効果に関する予備的考察」Discussion Paper Series, No. 2, The Management Society of Hiroshima University, 2014年6月。
2. 福間隆康「人的資源管理施策が職務パフォーマンスに与える影響—組織コミットメントの媒介効果と個人-職務適合の調整効果」『経営学論集』第84集, 1-11頁, 2014年9月。
3. 福間隆康「介護福祉士の職務満足・組織コミットメント・サービスの質に関する実証分析」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第64巻, 33-50頁, 2015年3月。

（2）学会報告

1. 福間隆康「職務自律性が職務満足に与える影響—能力と組織風土のモデレート効果に注目して」日本労務学会第44回全国大会（北海学園大学），2014年7月。
2. 福間隆康「障がい者の雇用と企業の新しい人的資源管理システム—特例子会社8社の事例分析」日本社会福祉学会第62回秋季大会（早稲田大学），2014年11月。

（3）その他

1. 福間隆康「障がい者の雇用と企業の人的資源管理システム—特例子会社10社の事例分析」J C-N E T会議（大妻女子大学），2015年3月。

（4）競争的資金の獲得状況

1. 平成25年度～27年度 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「サービス業における人材マネジメント・モデル構築に関する研究」（共同研究・研究分担者）
2. 平成26年度～28年度 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「障害者雇用の組織マネジメントに関する研究」（研究代表者）

○教育活動

1. 福祉対象入門
2. 福祉援助入門
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 福祉研究演習Ⅰ
5. 福祉研究演習Ⅱ
6. 福祉研究演習Ⅲ
7. 地域福祉活動Ⅰ
8. 相談援助演習
9. 相談援助実習指導
10. 相談援助実習

○委員会活動

（1）全学

1. 健康長寿センター運営委員

（2）学部

1. 就職委員
2. 学生委員（第14期生学年担当）

○社会的活動

1. 日本労務学会理事

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究代表者として成果の一部を学会報告することができた。次年度は、科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の形として、学術雑誌に論文を投稿する予定である。

2. 教育活動

各授業では、能動的な学習や共同学習に重点を置き、学生を知的な発見に取り組みさせるよう努めた。学生には講義を聴くだけでなく、より発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう努めた。今後は、学生による授業評価に基づき授業を改善し、魅力ある授業を実施していきたい。

3. 委員会活動

本年度は、就職委員・4回生学年担当として、第14期生の就職活動を支えた。3月末までに就職希望者全員が就職先を決定することができた。また、健康長寿センター運営委員として、リカレント教育講座を円滑に運営することができた。

4. 社会的活動

高知県中小起業家同友会の定例会において、県内の中小企業とつながりを作ることができた。大阪障害者雇用支援ネットワークの定例会において、企業、教育機関、支援機関等と関係を作ることができ、関心のあるテーマを把握する機会が得られた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や情報提供などを通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文
なし

2. 著書

- ・第3章第3節記録の意義と重要性『実務者研修テキスト3 介護におけるコミュニケーション』日本医療企画, 169-179.

3. 発表

- ・三好弥生「終末期高齢者の食事をめぐる介護福祉士の意識」第21回日本介護福祉教育学会（札幌）2014年8月
- ・三好弥生「特別養護老人ホームにおける看取りがケアに及ぼす効果」第22回日本介護福祉学会大会（東京）2014年10月

○教育活動

1. 学部担当科目

「こころとからだのしくみⅠ」

「高齢者に対する支援と介護保険制度」

「医療的ケアⅠ」

「福祉研究演習Ⅰ」

「医療的ケアⅡ」

「福祉研究演習Ⅱ」

「コミュニケーション技術」

「福祉研究演習Ⅲ」

「生活支援技術Ⅴ」

「介護総合演習Ⅰ」（2回生・前期）

「介護総合演習Ⅰ」（1回生・後期）

「介護総合演習Ⅱ」（3回生・前期）

「介護実習Ⅰ」（2回生）

「介護実習Ⅰ」（1回生）

「介護実習Ⅱ－①」

「介護実習Ⅱ－②」

○委員会活動

1. 全学

共通教育部会員

2. 学部

- ・広報委員
- ・教務委員
- ・国試対策支援ワーキンググループ委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・高知県福祉・介護人材確保推進協議会
- ・介護福祉士国家試験実地試験委員
- ・「人材不足分野における人材確保のための雇用管理完全促進事業」啓発実践コース（介護分野）に係る技術審査委員

2. 講演等

- ・高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 講師（11月1日）
- ・こうち介護の日 2014（高知中央公園）「プチリラクゼーション」（11月9日）

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動について

平成26年度は、それまでの研究成果を介護福祉関係の学会で発表することができた。しかし、研究はそれ以降停滞しており、次年度は、新たに担当する科目が増えるなど、さらに教育活動に費やす時間が増大することが予測されるため、研究時間の課題が大きな課題である。

2. 教育活動について

平成26年度は、新しく介護福祉士養成カリキュラムに追加された「医療的ケア」を初めて教授した。またこの科目の演習は、黒田しづえ先生と二人で担当した。演習には相当準備をして臨んだが、一人ひとりの技術確認などに想定以上の時間を要することとなった。また、物品の不具合や破損など予想外のトラブルも発生し、その対応に苦慮した。次年度もこの科目の担当するため、余裕をもって授業展開ができるようにしていきたい。

また、介護コースでは教育効果を高めるべく、平成26年度入学生より大幅なカリキュラム変更を行っている。そのため移行期である今年度は、4回の介護実習を実施することとなった。これについては、実習先の確保など事前に十分準備して混乱なく無事に終えることができた。次年度も引き続き移行期であるため、漏れや抜けがないように気を配り、スムーズに移行できるよう努めていきたい。

○研究活動

- (1) 論文・報告書・著書・発表 なし
- (2) 学内外の競争的資金の獲得状況
 - ・科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号 26780315、平成 26 年度—28 年度）
研究代表者：稲垣佳代
研究課題名：「精神保健福祉士がもつ就労イメージの変容プロセスと支援への影響に関する研究」

○教育活動

- (1) 講義
 - ・精神保健福祉援助技術各論
 - ・精神保健福祉援助演習
 - ・精神保健福祉援助実習
 - ・精神保健福祉援助実習指導 I
 - ・精神保健福祉ふれあい実習
 - ・社会調査の基礎
 - ・社会福祉入門演習
 - ・社会福祉基礎演習
 - ・こころの健康
- (2) 講義以外
 - 1. 国家試験受験生への学習支援
精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」にかかわる受験対策講座を開講した。
 - 2. 太鼓部顧問

○委員会活動

- ・実習委員会
- ・入試委員会
- ・教務委員会
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

- ・高校生のための公開講座 「精神保健福祉士のしごと ～自分を道具に!?～」
- ・日本精神保健福祉学会 事務局員

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、精神保健福祉士の養成に関わる科目だけでなく、「社会調査の基礎」の質的調査の部分を担当した。精神保健福祉士養成に関わる各科目の履修者は30名程度であるが、「社会調査の基礎」は社会福祉士の指定科目であるため70名以上の学生が履修した。大人数でも、学生が主体的に学習できるようFD研修で学んだアクティブラーニングの手法を取り入れるなどの工夫を行った。

また、今年度初めて「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」を補助的な立場で担当した。具体的には、社会福祉学を学ぶうえで必要となる基礎的な力を学生に習得させるため、レポートの書き方やグループ学習の方法などについての講義を行った。

さらに、休職した教員の担当科目であった「こころの健康」を3コマ分担当し、青年期・壮年期におけるメンタルヘルス（結婚生活や職場におけるメンタルヘルス課題）について講義を行った。

上記のように、今年度は精神保健福祉士の養成に関わる科目に加え、新規に担当する科目が複数あり、授業準備に追われる日々が続いた。

（２）研究活動について

昨年度申請していた科研費が採択となった。研究を進めていくうえで、調査対象となる現場の精神保健福祉士と協力関係を築いていくことは必要不可欠である。本年度はその第一歩として、現在活躍しているベテランの精神保健福祉士から研究に関する助言をいただいた。研究テーマや研究の意義をより明確にし、また現場に貢献できる研究にしていくために、非常に有意義な機会となった。

本研究において重要な調査対象となる人物については、本学の鈴木孝典先生にご紹介いただくなど、鈴木先生には研究を進めていくうえでご指導・ご鞭撻を賜った。（鈴木先生、この場をお借りして御礼申し上げます。）

（３）今後の課題

来年度は新入生の学年担当となり、昨年度は補助的な立場で担当した「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」の主担当となる。また、新規担当科目として「就労支援サービス」も加わり、業務における教育活動の割合が高くなることが予想される。教育活動に終始せず、研究活動を計画的に進めていくことが課題である。

○研究活動

（1）学術論文

- ・中村佐織・西梅幸治・加藤由衣（2015）「地域包括支援センターにおけるアセスメント方法の構築ーコンピュータ支援ツールの検討ー」『福祉社会研究』第15号, 75-92.

（2）学会参加

- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・日本学校ソーシャルワーク学会

（3）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（4）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの研究」（研究代表者：中村佐織）（平成25年～27年度）における研究分担者
- ・平成26年度高知県立大学「科研費」獲得支援助成事業「高知県スクールソーシャルワーカー活用事業における現任教養システムの研究」

（5）その他

- ・日本社会福祉養成校協会編（2014）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2015』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「虐待防止論」
- ・「社会福祉特別演習Ⅵ」
- ・「相談援助演習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部教務委員会
- ・学部学生委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ
- ・第16期生学年担当

○社会的活動

（１）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・中央福祉学院非常勤講師（「相談援助実習」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

今年度は、これまで継続して行ってきたソーシャルワーク現任教育研究のなかでも、スクールソーシャルワーカーの教育に焦点化して研究に取り組んだ。特に、「科研費」獲得支援助成事業をとおして、スクールソーシャルワーカーの省察的実践を促進する現任教育の意義を明確にしてきた。次年度は、論文等でその成果をまとめるとともに、スクールソーシャルワーカーの省察的実践を促進する現任教育の方法の研究を、計画的に進めていきたい。また、エコシステム研究会では、ソーシャルワーク実践におけるコンピュータ支援ツールについて、地域包括支援センターの実践場面に特化して検討を進め、その成果を論文にまとめることができた。次年度も継続して支援ツールの内容や活用方法を探究していきたい。

（２）教育活動について

講義・演習では、日常場面の具体例を用いた説明やグループワーク、視聴覚教材の活用をとおして、ソーシャルワークの抽象概念を学生が実感をもって理解できるような授業の組み立てを意識した。また、リアクションペーパーとそれに対するコメントや、学生同士の相互評価を実施するなど、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を工夫した。今後も、リアクションペーパーを活用した学生からのフィードバックをもとに授業の改善を図りつつ、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。特に今年度は、実践現場におけるソーシャルワークについて学生の理解が深まるように、実習中の課題設定や実習後のグループワークを用いた振り返りなど、新たな取り組みを行った。次年度は、これらの取り組みに対する学生の学びや成果をふまえて、実習前後の一連の教育内容を検討・改善していきたい。また、これまで同様に、チームティーチングを意識して、全体の状況把握と個々の学生へのきめ細やかな指導に努めていきたい。

4回生の国家試験対策の支援では、個別面談の実施や学習環境づくりなどの学習支援を行ってきた。特に今年度は、早い時期から個別面談を実施し、学生の受験に対する意識づけに努めるとともに、卒業論文や就職活動の状況をふまえた学習計画など、個々の学生の状況にあわせた支援に携わることができた。今後も学生全体の士気を高めつつ、丁寧な個別対応を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

○研究活動

- ・遠山真世・二本柳覚・鈴木裕介（2014）『これならわかる<スッキリ図解>障害者総合支援法』翔泳社.
- ・鈴木裕介（2015）「医療社会事業の史的検証—浅草寺病院の取り組み」石川到覚監修，北本佳子・岩崎香編著『<社会福祉>実践と研究への新たな挑戦』新泉社.

○学会発表

- ・鈴木裕介（2014）「中山間地域で暮らす高齢者の医療福祉ニーズの構成要素」第24回日本医療社会福祉学会.
- ・二本柳覚・鈴木裕介（2014）「ケアマネジメント技術教育の効果に関する研究— ケアマネジメント演習の教授方法の違いによる知的理解への影響について」日本社会福祉学会第62回秋季大会.

○競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号:26780314，平成26年度-28年度）
研究代表者：鈴木裕介
研究課題名：「中山間地域で暮らす高齢者の医療に関連する福祉ニーズの評価指標の開発」

○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント演習
- ・保健医療サービス
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習
- ・社会福祉基礎演習
- ・社会福祉入門演習

○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員 学部
- ・学生委員
- ・実習委員

- ・ 総務委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ
- ・ 17期生学年担当

○社会活動

- ・ 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会にて「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造」について発表（日程：平成26年12月17日，会場：高知医療センター）

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

本年度は、「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造」をテーマにインタビュー調査及びアンケート調査を実施することができた。分析の結果の一部は、医療社会福祉学会にて発表することができた。今後も引き続き分析を進めて、論文としてまとめる予定である。

（2）教育活動について

講義は、昨年に引き続きソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った。具体的には、理論についての講義の直後にロールプレイを行い、具体的実践過程を理解できるよう努めた。また、主体性な講義参加に重点をおき、ロールプレイ後のディスカッションにおいて積極的な意見交換を促した。講義後半には、一人一人が自身の意見を表明することができるようになった。

実習教育は、実習マナーと倫理を重点的に行った。昨年度、多くの実習先から実習マナーについて指摘を受けたが、今年度はだいぶ改善できたように思われる。また、実習後教育として実習前と実習後の自身の変化や知識の捉え方について考察し、実習体験の理解を深めた。

（3）委員会活動・社会活動について

高知医療センターの医療ソーシャルワーカーと事例研究等を行い、現場での問題点や今後の課題について検討を行った。今年度は共同研究を行うことができなかったため、来年度以降の課題としている。

○研究活動

1. 論文

田中眞希・宮上多加子（2014）「離職者対象の介護人材養成事業の課題－事業利用学生と行政の立場から－」『介護福祉教育』第19巻第2号，69－80.

宮上多加子・田中眞希（2015）「介護雇用プログラム生の学びと仕事に対する思い－3年間の面接調査による変化の分析－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64，1-16.

田中眞希・宮上多加子（2015）「准看護師養成校で学ぶ社会人学生の学習や仕事に関する認識と職業経験の影響」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64，61－72.

2. 学会発表

田中眞希・宮上多加子：准看護師養成校で学ぶ社会人のキャリアと仕事に関する認識－介護職等の経験がある社会人学生に焦点を当てて－，第22回介護福祉学会大会（東京），2014年10月

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・障害の理解Ⅱ

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部国際交流委員会
- ・親交会委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

平成26年度入学生より，介護福祉士養成課程のカリキュラムを変更した。そのため，例年1年間に3回の介護実習を行っているが，今年度は4回の介護実習を行うこととなった。介護実習の回数が多いだけでなく授業の進度も異なるため，実習に必要な準備などが例年通りではなく，手探りで進めることとなった。次年度も，旧カリキュラムと新カリキュラムの介護実習が混在し例年通りとならないため，あらかじめ想定できる準備などに取り

教育研究活動報告書（田中 眞希）

り組み，柔軟に対応できるよう日頃から態勢を整えたい．特に実習先である施設・事業所の実習指導者が困惑することがないように，連絡を密にとるなど連携しながら進めていきたい．

担当科目について，学生が授業に参加しやすい環境をつくることを心がけ，グループワークやディベートなどを行った．これらの演習を取り入れたことは，教員からの一方的な講義だけでなかったため，学生が主体的に取り組めたのではないかと感じた．

介護実習，授業ともに，学生の意見などを聴取し，より分かりやすい授業や実習指導を展開したいと考えている．

2．研究活動について

昨年度実施した調査結果を公表することができた．今年度は科学研究費助成事業の研究分担者として，介護職等経験の後に准看護師養成校へ入学した社会人学生に対して調査を行い，結果を分析した．次年度以降，これらの分析をさらに進めるとともに，調査を実施するなど，計画的に進めたいと考えている．

3．社会活動について

昨年度から今年度の2年間，日本介護福祉士養成校協会高知県の代表校としての役割や活動があった．介護福祉士養成校の課題は学校によりさまざまであるが，養成校教員同士が交流できる場となるよう取り組むことができたと考えている．

地域での活動は介護福祉実習等での関係を大切にし，少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている．

二本柳 覚

Akira NIHONYANAGI

○ 研究活動

1. 論文

- 1) 二本柳覚 (2014) 「地方都市におけるスクールソーシャルワーク活動に対する一考察 : 一地方都市の実践から」(査読あり)『福祉研究』107, 50-58.

2. 著書

- 1) 遠山真世・二本柳覚・鈴木裕介(2014)『これならわかる<スッキリ図解>障害者総合支援法』翔泳社.

3. 学会発表

- 1) 二本柳覚・上原久(2014)「エキスパートを対象としたケアマネジメント研修会の教育効果 ～野中塾参加者に対する WI 調査から～」日本ケアマネジメント学会第 13 回研究大会, 2014. 7. 20
- 2) 二本柳覚・鈴木裕介 (2014)「ケアマネジメント技術教育の効果に関する研究 -ケアマネジメント演習の教授方法の違いによる知的理解への影響について-」日本社会福祉学会第 62 回秋季大会, 2014. 11. 30

4. 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手(B)、課題番号：26780312、平成 26-28 年度）

研究代表者：二本柳覚

研究課題名：「ソーシャルワーカー養成におけるケアマネジメント技術教育の確立に関する研究」

5. その他

- 1) 二本柳覚(2014)「第 2 章 精神保健の課題と支援」「第 5 章 精神保健福祉の理論と相談援助の展開」「第 6 章 精神保健福祉に関する制度とサービス」精神保健福祉士試験対策研究会著『福祉教科書 精神保健福祉士 完全合格テキスト 専門科目 第 2 版』翔泳社.

○ 教育活動

- ・精神科リハビリテーション学
- ・精神保健福祉援助実習
- ・精神保健福祉援助実習指導 I
- ・精神保健福祉ふれあい実習
- ・心の健康

○ 委員会活動

- ・広報委員
- ・入試実施委員
- ・情報処理委員

- ・実習委員
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・国試対策ワーキンググループ

○社会的活動

1) 講演・講座等

- ・社会福祉学部第1回リカレント講座「ケアマネジメントの『中核技術』を測る－WorkIndexを用いた自己研鑽」(10月4日)
- ・2014年度高知県児童福祉司認定講習会講師「障害者福祉論」担当(8月8日)
- ・宿毛高等学校「進路ガイダンス」(12月11日)

2) 学会活動

- ・日本精神保健福祉学会事務局員
- ・日本学校ソーシャルワーク学会地区世話人

3) その他

- ・第50回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会「今日からはじめる事例検討～10年後の精神保健医療福祉を見据えて～」グループリーダー(6月19日)

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

本年度は論文が1本、報告が2本であった。論文については年に1本のペースを死守することが出来、ほっとしているが、より活発な取り組みを行いたい。また、著作として本学教員2名とともに障害者総合支援法に関する本を出版した。また機会があれば、わかりやすさを意識した書籍の作成を行いたい。

科研費等外部資金の獲得については、科研費(若手B)を3年間で取得することができた。今後、より積極的な研究活動を進めていきたい。

(2) 教育活動について

本年度担当した「精神科リハビリテーション学」では、教科書のみでなく、視聴覚教材も含めて興味関心を持ちやすくなるような構成になるよう意識して運営を行った。また講義の最後に、よくあるリアクションペーパーではなく、講義に対する「質問」を書かせる事によって、講義内容について意識的に取り組めるよう試みた。結果として、すべての学生ではないが、継続的に実施することで、質問の質に向上が見受けられた。

実習指導に関しては、事前学習、実習巡回、事後学習と、一貫した教育を行うことが出来た。出来る限り実りある実習になるように心がけた指導を行ったが、学生がどの程度の学びを深めることが出来たか、十分に測ることはできなかった。今後卒業教育を含めた取り組みを行っていくことが必要であると考えている。

(3) その他

全体的な活動としては、一定程度のことのできているかと思うが、高知県に根ざした研究活動ができているかといえば、まだ十分とは言いがたい。高知県に根ざした研究の実施を進めていくとともに、県立大学の教員として、県民に還元できるような取り組みを実施していきたい。

○ 研究活動

論文 なし

○ 教育活動

- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助演習
- ・ 虐待防止論
- ・ 社会調査の基礎
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ 社会福祉論

○ 委員会活動

- ・ 広報委員
- ・ 健康長寿委員センター委員
- ・ 学生委員（15期生学年担当）
- ・ 実習委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ
- ・ 情報処理部会

○ 社会的活動

- ・ 社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会
(11月、12月、1月に3回実施。会場：高知県立大学)

○ 総合評価及び今後の課題

研究活動

今年度は、科学研究費助成事業（若手研究B）で行った調査を論文としてまとめる準備段階にあった。次年度は、これまでの調査結果を論文として完成させる予定である。

教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。また15期生の学年担当として3回生の学生生活をサポートしてきた。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよ

教育研究活動報告書（橋本 力）

う改善していきたいと考えている。また学年担当業務においては、学生を様々な側面からサポートできるよう今後も努めていきたい。

社会的活動

今年度における社会的活動は、社会福祉士会による社会福祉士受験対策勉強会を3回実施した。次年度においては、自身の専門および研究成果等を地域へと還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

2014年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

| 委員会名 | 構成メンバー | | | |
|---------------------------|--|--|---|--|
| 教務委員会 | <u>西内 章</u> | 長澤 紀美子 | 三好 弥生 | 加藤 由衣 |
| | 稲垣 佳代 | | | |
| 入試委員会 | <u>宮上 多加子</u> <small>(全学入試委員・ 学部入試実施委員)</small> | <u>鈴木 孝典</u> <small>(学部入試実施委員長)</small> | 鳩間 亜紀子 <small>(学部入試実施委員)</small> | 井上 健朗 <small>(学部入試実施委員/セン ター試験部会委員)</small> |
| | 稲垣 佳代 | 二本柳 覚 | | |
| 学生委員会 | <u>遠山 真世</u> | 丸山 裕子 | 黒田 しづえ | 福間 隆康 |
| | 鳩間 亜紀子 | 加藤 由衣 | 鈴木 裕介 | 橋本 力 |
| 実習委員会* | <u>西内 章</u> | 西梅 幸治 <small>(社会福祉士コース 主担当)</small> | 黒田 しづえ <small>(介護福祉士コース 主担当)</small> | 鈴木 孝典 <small>(精神保健福祉士 コース主担当)</small> |
| 就職委員会 | <u>福間 隆康</u> | 黒田 しづえ | 鈴木 孝典 | 橋本 力 |
| 広報委員会 | 遠山 真世 | <u>三好 弥生</u> | 橋本 力 | 二本柳 覚 |
| 健康長寿センター | 福間 隆康 | 井上 健朗 | 二本柳 覚 | 橋本 力 |
| 高知医療センター・ 県立大学包括的連携協議会 | 宮上 多加子 | 井上 健朗 | 鈴木 裕介 | |
| | 看護・社会福祉連携部会委員 | | | |
| 総務・予算委員会 | <u>山村 靖彦</u> | 西梅 幸治 | 鈴木 裕介 | 田中 眞希 |
| 情報処理委員会 | <u>鈴木 孝典</u> | 橋本 力 | 二本柳 覚 | |
| 国試対策WG | <u>西梅 幸治</u> | 三好 弥生 | 遠山 真世 | 加藤 由衣 |
| | 鈴木 裕介 | 橋本 力 | 稲垣 佳代 | 二本柳 覚 |

■ : 全学委員

一重下線 : 学部委員長

※ 実習委員会委員は上記委員長＋各コース主担当に加え、授業担当者全員

教 務 委 員 会

西 内 章

（１）教務委員会の開催

平成 26 年度は、長期履修制度や新カリキュラムの年次配置について検討を行い、学部教務委員会を平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までに計 20 回開催した。

（２）長期履修制度の導入

平成 27 年度以降の入学生を対象にした長期履修制度を大学全体として導入するため、社会福祉学部でも長期履修制度の実施する手続きを定めた。この制度を利用して、卒業時に社会福祉士の受験資格を得る場合には、実習先との調整が必要なため、履修スケジュールを事前に確認することになっている。

（３）社会人入学者への既修得単位認定

平成 26 年度から社会人入学を実施したことに伴い、4 月のオリエンテーション期間中に、臨時教授会を開催し、社会人入学の学生を対象にした既修得単位認定を実施した。これまでも本学以外の大学等で履修した科目があれば既修得単位認定を行うことになっているが、今年度から社会入学の学生が対象に加わった。

（４）CAP 制導入と新カリキュラムの実施に伴う科目配置、年次移行スケジュール

平成 25 年度に行ったカリキュラムの改正を実施するために、科目配置、年次移行を検討した。特に平成 27 年度から実施することになっていた CAP 制と介護福祉士の科目配置の見直しが重要なテーマであった。また、CAP 制と同じく平成 27 年度から実施される共通教養科目の域学共生科目についても、同様に実施上の課題を検討した。

そして、平成 27 年度から平成 30 年度までの各学年の科目配置と年次移行スケジュールが完成し、教授会で承認された。

（５）集中講義科目による対応

専任教授の病気療養に伴い、急遽、専任教員で担当できない科目について、非常勤講師にて対応することとなった。そのため、学生にとっては不規則な開講になる科目が複数生じた。予定外の事情ではあったが、今年度、科目配置を見直したため、今後は多少時間割に余裕ができると考えている。また例年通り、「相談援助実習」、「精神保健援助実習」が 7 月や 10 月にも行わなければいけないため、集中講義による補講を実施した。

（６）卒業研究論文に関する発表会の開催

今年度も、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成し、卒業研究論文の具体的な進め方を示した。そして、例年通り、卒論構想発表会を 5 月 19 日（月）、卒論中間発表会を 10 月 29 日（水）、卒論発表会を 2 月 13 日（金）に実施した。

なお、卒論構想発表会、卒論中間発表会は、例年通りの方法を採用したが、卒論発表会はポスター発表よる口頭報告とした。その理由は、「1 人あたりの発表時間を増やしてほしい」という要望が先生方からあったため発表形式を変更し、1 人あたりの発表時間を多く確保した。

（7）学部以外の専任教員による卒業論文の指導

今年度から、学生が所属する学部以外の専任教員でも卒業研究論文の指導が受けられるように手続きを改善した。社会福祉学部の場合には、「福祉研究演習Ⅲ」の授業の一環として卒業研究論文の研究活動を行うことになっている。そこで、まず2回生のゼミ選択時に、卒業研究論文は、社会福祉学部以外の専任教員から指導を受けることが可能であることを伝える。その後、3回生後期の1月に行っている卒業研究論文の「仮テーマ」の提出時に、学生に社会福祉学部以外の専任教員から指導を受けるか否かの希望をとり、教授会で審議後、社会福祉学部以外の希望する専任教員へ依頼を行うことにした。

（8）次年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『平成25年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2回生へ配布と説明をした。そして1月にゼミ希望をまとめた。今年度も退職する教員があり、来年度のゼミ担当教員が15名となった。そこで1ゼミあたり7名目安として調整した。

（9）今後の課題

次年度も旧カリキュラムと新カリキュラムを並行して実施するため、新カリキュラムの移行スケジュールに基づき、両カリキュラムを着実に実施することが重要となる。また、留学生や長期履修生など多様な履修を可能とする学部カリキュラムを編成する必要がある。そこで、学生の多様な履修を可能とするために、次年度は時間割や授業内容、科目配置について総合・包括的な視点から検討を行っていきたい。

入 試 委 員 会

鈴木 孝典

○平成 26 年度委員会の体制

平成 26 年度の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を前山智学部長、全学入試実施委員を鈴木孝典（委員長）・鳩間亜紀子・井上健朗、学部入試委員を稲垣佳代・二本柳覚、センター試験部会委員を福間が担当した。

○平成 27 年度入試の概況

1. 結果

| 区 分 | 募集人員 A | 男女別 | 志願者数 B | | 受験者数 C | | 合格者数 D | | 追加合格者数 | | 入学手続者数 | | 辞退者数 | 入学者数 | | 志願倍率 | 合格倍率 | |
|------------------------|--------------|-----|-----------|------|-----------|------|-----------|------|--------|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | 全体 | (県内) | | 全体 | (県内) | B/A | C/D | |
| 推薦 (11/15) | 一般 県内 | 20 | 男 | 6 | 6 | 6 | 6 | 2 | 2 | | | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | - | 3.0 |
| | | | 女 | 25 | 25 | 25 | 25 | 19 | 19 | | | 19 | 19 | 0 | 19 | 19 | - | 1.3 |
| | | | 計 | 31 | 31 | 31 | 31 | 21 | 21 | | | 21 | 21 | 0 | 21 | 21 | 1.6 | 1.5 |
| | 一般 全国 | 10 | 男 | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | |
| | | | 女 | 30 | 0 | 30 | 0 | 10 | 0 | | | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | - | 3.0 |
| | | | 計 | 38 | 0 | 38 | 0 | 10 | 0 | | | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | 3.8 | 3.8 |
| 計 | 30 | 男 | 14 | 6 | 14 | 6 | 2 | 2 | | | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | - | 7.0 | |
| | | 女 | 55 | 25 | 55 | 25 | 29 | 19 | | | 29 | 19 | 0 | 29 | 19 | - | 1.9 | |
| | | 計 | 69 | 31 | 69 | 31 | 31 | 21 | | | 31 | 21 | 0 | 31 | 21 | 2.3 | 2.2 | |
| 個別 | 前期 (2/25) | 35 | 男 | 38 | 7 | 38 | 7 | 11 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | - | 3.5 |
| | | | 女 | 90 | 18 | 84 | 18 | 32 | 8 | 0 | 0 | 26 | 8 | 0 | 26 | 8 | - | 2.6 |
| | | | 計 | 128 | 25 | 122 | 25 | 43 | 8 | 0 | 0 | 36 | 8 | 0 | 36 | 8 | 3.7 | 2.8 |
| | 後期 (3/12) | 5 | 男 | 27 | 4 | 18 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | |
| | | | 女 | 80 | 15 | 42 | 9 | 5 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | - | 8.4 |
| | | | 計 | 107 | 19 | 60 | 13 | 5 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | 21.4 | 12.0 |
| 計 | 40 | 男 | 65 | 11 | 56 | 11 | 11 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | - | 5.1 | |
| | | 女 | 170 | 33 | 126 | 27 | 37 | 8 | 0 | 0 | 30 | 8 | 0 | 30 | 8 | - | 3.4 | |
| | | 計 | 235 | 44 | 182 | 38 | 48 | 8 | 0 | 0 | 40 | 8 | 0 | 40 | 8 | 5.9 | 3.8 | |
| 社会人 (11/15) | 若干人 | 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | | |
| | | 女 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | - | 1.0 | |
| | | 計 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | | 1.0 | |
| 私費外国人 留学生 (2/25) | 若干人 | 男 | 4 | | 3 | | 1 | | | | 1 | | 0 | 1 | | - | 3.0 | |
| | | 女 | 1 | | 1 | | 0 | | | | 0 | | 0 | 0 | | - | | |
| | | 計 | 5 | | 4 | | 1 | | | | 1 | | 0 | 1 | | | 4.0 | |
| 合計 | 70 | 男 | 83 | 17 | 73 | 17 | 14 | 2 | 0 | 0 | 13 | 2 | 0 | 13 | 2 | - | 5.2 | |
| | | 女 | 227 | 58 | 183 | 52 | 67 | 27 | 0 | 0 | 60 | 27 | 0 | 60 | 27 | - | 2.7 | |
| | | 計 | 310 | 75 | 256 | 69 | 81 | 29 | 0 | 0 | 73 | 29 | 0 | 73 | 29 | 4.4 | 3.2 | |

前期試験の課題図書：玄田有史（2010）『希望のつくり方』岩波書店

入学手続者の県内率：39.7%（前年度：45.8%）

委員会活動年度報告書（入試委員会）

○平成 27 年度入試の特徴

1. 前年度（平成 26 年度入試）と比し、志願倍率、合格倍率ともに減少した。あわせて、手続者の県内率も減少した。なお、志願倍率・合格倍率については、平成 24 年度入試から減少傾向にある。（下表）。

| | 平成 27 年度 | 平成 26 年度 | 平成 25 年度 |
|------------|----------|----------|----------|
| 志願倍率 | 4.4 | 5.1 | 5.9 |
| 合格倍率 | 3.2 | 3.6 | 3.9 |
| 手続者の県内率（%） | 39.7 | 45.8 | 41.1 |

2. 前年度まで続いていた、推薦入試の全国枠への高知県内からの出願はなかった。（推薦入試の全国枠は、平成 23 年度から実施を始めた）
3. 昨年度より開始した社会人入試については、出願者 1 名が受験し、その者を合格とした。
4. 私費外国人留学生については、全学国際委員会の継続的な広報活動が結実し、昨年度よりも、出願者、受験者共に増えた。出願者 5 名、受験者 4 名で、受験者全員が中国からの留学生であった。受験者のうち 1 名を合格とした。

○課題

1. 本学社会福祉学部を志願する受験者が減少傾向にあることから、広報委員会などと協力して高校訪問や出前講座など、受験者の増加に向けた取り組みを試行する。あわせて、こうした機会を通じて、高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集し、今後の広報活動に役立てる。
2. 入試の実施体制（試験問題の作成及びチェック体制、当日の運営体制など）について、課題を検討し、引き続き改善を図る。
3. 私費外国人留学生入試の実施体制（出願資格のチェック体制、当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の採点評価基準、語学力を試験で確認するための選抜方法など）について、本学他学部及び他大学の実施状況に係る情報収集や国際委員からの助言、指導などを踏まえて、引き続き検討する。
4. 障害を有する受験者への受験上の配慮について、学部内で引き続き検討し、受入体制の整備を図る。

以上

学 生 委 員 会

遠 山 真 世

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

学生のメンタルヘルス、悩み事などの相談は、基本的には学年担当教員およびゼミ担当教員が対応し、学生委員会において情報を共有した。対応が困難な場合は、健康管理センターや学生課と連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、等による相談窓口について、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法等の説明を行い、掲示板などを利用して学生に周知を行った。保健相談の日程については、学部教員にも配布し、研究室やゼミ室への掲示を依頼した。

2. 経済的援助

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生課と連携し、情報提供及び手続を行った。

3. 事故・事件への対応

近年、学生数の増加に伴い事故や事件が増加しており、掲示板等による注意喚起、交通安全講習会やストーカー・サイバー犯罪対策セミナーの開催など全学的に対応が行われた。学年担当を通じて注意喚起や情報提供も積極的に行った。

池キャンパスにおける事故件数

| | | | |
|-----------|-------------------------|---|--------|
| ・平成 23 年度 | 交通事故 18 件、交通事故以外の受傷 5 件 | → | 計 23 件 |
| ・平成 25 年度 | 交通事故 24 件、交通事故以外の受傷 9 件 | → | 計 33 件 |
| ・平成 26 年度 | 交通事故 23 件、交通事故以外の受傷 2 件 | → | 計 25 件 |

4. 感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、B型肝炎抗体検査を実施、情報提供を行った。ツベルクリン反応検査については、本年度から全学的に実施しないこととなった。

5. 学生ニーズ調査の実施

10月に「学生生活実態及びニーズ調査」が行われ、全学で1,008の回答が得られた（回収率87.2%）。社会福祉学部の回答数は291（回収率80.8%）であった。

○今後の課題

学生の健康や学費等経済面に関する相談、交通事故や犯罪被害等いずれも増加傾向にある。そのため、学部学生委員会、学生・就職支援課、健康管理センターで円滑に連携しつつ、防止と対応に努める必要がある。また次年度は、学生ニーズ調査の結果を分析し、本学部の傾向や課題を抽出するとともに、対応について協議する予定である。

実 習 委 員 会

西 内 章

1. 実習委員会の活動目的

本年度は、介護・社会福祉コースの1回生から新カリキュラムになり、精神・社会福祉コースにおいては、4回生が旧カリキュラムの最終年度であった。また、社会福祉士の指定科目については、新カリキュラム移行が始まった年度であった。そのため、三福祉士の実習についても、学生や実習先ときめ細かな連絡調整を行いながら、実習科目を円滑に実施することであった。

2. 配属実習の内訳

本年度の実習生は、相談援助実習で72名（昨年度66名）、精神保健福祉実習が23名（同27名）、介護実習Ⅰは21名（同18名）、介護実習Ⅱ－①が21名（同18名）、介護実習Ⅱ－②は、18名（同20名）、介護実習Ⅰ（新カリキュラム）は19名であった。

相談援助実習72名の内訳は、社会福祉協議会26名、病院（精神科除く）12名、児童相談所3名、児童養護施設12名、児童家庭支援センター3名、児童自立支援施設2名、特別養護老人ホーム1名、養護老人ホーム1名、障害者支援施設1名、療養介護事業所・医療型障害児入所施設2名、障害福祉サービス事業所4名、生活介護事業所2名、相談支援事業所等2名、独立型社会福祉士事務所1名であった。

精神保健福祉援助実習の23名の内訳は、精神科病院23名、精神保健福祉センター2名、障害福祉サービス事業所9名であった。

介護実習の内訳は、介護実習Ⅰでは、介護老人福祉施設14名、介護老人保健施設7名、障害者支援施設13名、重症心身障害児・者施設8名、通所介護事業所14名、通所リハビリテーション事業所7名、訪問介護事業所21名、小規模多機能型居宅介護事業所2名であった。介護実習Ⅱ－①では、介護老人福祉施設11名、介護老人保健施設2名、障害者支援施設5名、重症心身障害児・者施設3名であった。介護実習Ⅱ－②では、介護老人福祉施設12名、介護老人保健施設3名、重症心身障害児・者施設3名であった。介護実習Ⅰ（新カリキュラム）では、介護老人福祉施設19名、障害者支援施設10名、生活介護事業所9名、通所介護事業所5名、通所リハビリテーション事業所2名、訪問介護事業所7名、小規模多機能型居宅介護事業所12名であった。

3. 実習連絡協議会

各実習先の実習指導者と配属実習のあり方や具体的な進め方、連絡調整を図るために、今年度も実習連絡協議会を開催した。まず、平成26年12月1日（月）に介護福祉実習連絡協議会を実施した。平成26年3月10日（火）午前、精神保健福祉援助実習、当日午後に相談援助実習の実習連絡協議会をそれぞれ開催した。今年度も各施設・機関の実習に関する意見を十分に聴取し、次年度に反映させていくことを確認した。

4. 円滑な実習体制づくり

相談援助実習・精神保健福祉援助実習・介護実習の3福祉実習を円滑に進めていくため、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士それぞれのコース責任者の先生方と、実習委員会として会議を開催し、科目履修や配属実習に関連する申し合わせ、実習のてびきの作成要領について審議・協議を行った。

教育研究活動報告書（実習委員会）

また例年通り、福祉実習支援室を担う各福祉実習担当助教と福祉実習支援室長、実習委員長との連絡会議を月1回実施し、実習事務や福祉実習支援室に関わる業務の充実を図った。

5. 成果と課題

（1）実習のてびきの改善

今年度から、実習のてびきを「相談援助実習・精神保健福祉援助実習版」と「介護福祉実習版」に分けて作成することにした。これは実習事務の開始時期が、介護福祉士の場合は、社会福祉士や精神保健福祉士と違うスケジュールのためである。なお、それぞれの実習のてびきは、他資格の履修科目について説明を加えるなど今後も内容を検討して改善していきたい。

（2）共通教養科目「地域学実習」との関連性

2015年度から、共通教養科目「地域学実習」が開始される。これは全学必修科目であり、社会福祉学部の配属実習との時期について調整である。共通教育部会との連携しながら、それぞれの実習を円滑に実施したい。

（3）福祉実習支援室の体制づくり

配属実習の円滑な実施には、福祉実習支援室の機能が重要である。今年度も実習担当助教の先生方による努力と創意工夫により、大きな問題もなく実習事務を終えることができた。実習先との連絡や書類のやりとりだけでなく、学生達の相談窓口にもなっている。福祉実習支援室の開設以来5年が経過し、実習委員会としても福祉実習支援室の活用方法について今後も検討したい。

就 職 委 員 会

福 間 隆 康

○ 社会福祉学部の取り組み

（1）就職ガイダンス等

- ① オリエンテーション（2014年4月）
- ② 家庭裁判所調査官就職説明会（2014年4月）
- ③ 4回生による社会福祉学部就職セミナー（2014年12月）
講師：秋月直美さん、濱口実里さん、馬場光沙さん、矢野亜依さん（14期生）

（2）個別相談等

ワクワクWork!!と連携しながら、学年担当教員、ゼミ担当教員らが中心となり、4回生の進路相談、履歴書添削、面接練習を行った。また3回生以下の学生に対しては、学部就職委員と学年担当教員が連携し、全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

（3）進路の状況（2015年3月31日現在）

就職希望者 72名（72名内定）

進学希望者 1名（県外大学院）

【就職内定先業種別内訳】

| | |
|---------|----------------|
| 一般企業 | 7名 |
| 公務員 | 14名（うち福祉職4名） |
| 医療機関 | 20名（うち精神科病院9名） |
| 社会福祉協議会 | 9名 |
| 社会福祉施設 | 20名 |
| 独立行政法人 | 2名 |

【卒後勤務地】高知県内 31名、高知県外 41名

○ 今後の課題

2014年度は、公務員の就職希望者が多く、就職希望地も広範囲に渡った。進路指導については、ゼミ担当教員の協力を得て進めてきたが、当初は個々の学生の就職活動状況の把握が難しかった。

今後の課題としては、①一般企業を受験する学生への支援、②就職希望者と求人とのマッチング支援、③国家試験不合格者の内定取り消しに関する対応などが考えられる。次年度から新卒採用スケジュールが大きく変更され、選考の実施期間が大幅に短縮されることから、ワクワクWork!!と緊密な連携を取りながら、より細やかな支援をしていく必要があるだろう。

広 報 委 員 会

遠 山 真 世

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会（学部）は、全学広報専門委員会（大学案内・オープンキャンパス専門委員会）に遠山講師が参加、学部委員を三好講師・二本柳助教・橋本助教が担当した。

（１）「大学案内」の編集・製作

2016年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新した。

（２）オープンキャンパス：8月3日（日）・8月31日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、学部紹介DVD上映、体験授業（杉原教授・山村准教授）、ゼミ室訪問、介護体験コーナー、手話体験コーナー、見学ツアーなどのプログラムを実施した。参加者数は添付資料のとおりである。

（３）高校生のための公開講座：8月2日（土）

本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらい、四国で唯一の公立大学で3福祉士資格に対応する本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。本年度は黒田准教授・稲垣助教・加藤助教が講座を担当した。参加者数は添付資料のとおりである。

（４）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度については、1回生16名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてPRを行った。

（５）学部パンフレットの作成

本年度は、昨年度作成した学部パンフレットを改訂した。年次で変更が必要な箇所について修正し、1,200部を作成した。

（６）学部ホームページ

①全学・学部のイベントごとに写真付きの記事を作成し、学部HPに掲載した（23件）。

②掲載内容について確認・修正を行い、国家試験の結果等のデータを最新のものにした。

（７）キャンパス訪問への対応

本年度も高校生や進路指導教員による学部訪問が実施され（5校）、教員や在学生による学部紹介、学部紹介DVDの上映、介護実習室の見学などを行った。

（８）その他

その他、①さんさんテレビ『進め！介護の道』への撮影協力、②夢ナビ『夢ナビ講義』への記事提供（田中きよむ教授・後藤准教授・鈴木孝典准教授・井上講師）、③進学ガイドダンス用FAQの修正などを行った。

○今後の課題

来年度も引き続き、3福祉士対応、少人数教育、国試合格率・就職率の高さなどのメリットを活かし、高校生、保護者、進路指導担当を対象に広報活動を展開していきたい。特に、公開講座やオープンキャンパス、高校からの本学訪問など、社会福祉や本学部の魅力を伝える機会をより有効に活用したい。

26年度 高校生のための公開講座・オープンキャンパスの開催結果

2014.10.27
広報委員会

(1) 高校生のための公開講座(参加者52名)

| | H26年度 | H25年度 | 前年比 |
|----|-------|-------|-----|
| 男性 | 10 | 1 | 9 |
| 女性 | 42 | 43 | -1 |
| 計 | 52 | 44 | 8 |

| | H26年度 | H25年度 | 前年比 |
|----|-------|-------|-----|
| 1年 | 0 | 2 | -2 |
| 2年 | 15 | 6 | 9 |
| 3年 | 37 | 36 | 1 |

| | H26年度 | H25年度 | 前年比 |
|----|-------|-------|-----|
| 高知 | 17校 | 17校 | 0 |
| 愛媛 | 3校 | 6校 | -3 |
| 徳島 | 2校 | 2校 | 0 |
| 香川 | 1校 | 0校 | 1 |
| 岡山 | 0校 | 1校 | -1 |
| 大阪 | 1校 | 0校 | 1 |
| 計 | 24校 | 26校 | -2 |

(2) オープンキャンパス(参加者114名)

8月3日 参加者

| 全体 | 県内 | 県外 |
|----|----|----|
| 59 | 43 | 16 |

8月31日 参加者

| 全体 | 県内 | 県外 |
|----|----|----|
| 72 | 47 | 25 |

2日間(3日、31日)ともに来校した参加者

| 全体 | 県内 | 県外 |
|----|----|----|
| 17 | 16 | 1 |

3日、31日全体の参加者(2回参加者を、1回参加としてまとめたもの)

| 全体 | 県内 | 県外 |
|-----|----|----|
| 114 | 74 | 40 |

前年度との比較

| | 26年 | 25年 | 前年比 |
|----|-----|-----|-----|
| 全体 | 114 | 140 | -26 |
| 県内 | 74 | 88 | -14 |
| 県外 | 40 | 52 | -12 |

2014年8月3日(日)
受付:9時~(随時)
共用棟1階ロビー

Open Campus 2014 社会福祉学部

| 共用棟(0階) | 社会福祉学部棟(E棟) | | 看護福祉棟(F棟) | |
|---|--|---|--|---|
| 大講義室 (2階) | E102 (1階) | E103 (1階) | 演習室 (2・3・4階) | F110 (1階) |
| <p>学部全体説明会 9:30~10:10</p> <p>大学の授業を受けてみよう!</p> | <p>前年大評判! 体験授業 10:25~11:10</p> <p>大学の授業を受けてみよう!</p> | <p>大学生活や資格など何でも聞いてみよう!</p> <p>先輩・教員との談話室 10:10~12:00</p> <p>先輩や後輩のことなどいろいろ聞いてみよう!</p> | <p>ボランティアのこと聞いてみよう!</p> <p>サークル活動紹介 10:10~12:00</p> <p>手話サークル ・かんきもん</p> | <p>教員との談話コーナーあり!</p> <p>休憩室 10:10~12:00</p> <p>・学部紹介 ・福祉の仕事 などDVD上映</p> |
| <p>9月3日と同じ内容です</p> | <p>前年大評判! 体験授業 10:25~11:10</p> | <p>大学生活や資格など何でも聞いてみよう!</p> <p>体験授業 10:25~11:10</p> | <p>サークル活動紹介 9:30~12:00</p> <p>・いけとべ! ・手話サークル</p> | <p>体験授業 10:25~11:10</p> |
| 食堂(共用棟地下1階)で学生アトラクション (よさこいチーム・グロウ・カル・クラブ/Japanese:太鼓部) | | | | |
| <p>午飯と同じ内容です。</p> <p>学部全体説明会 13:10~13:50</p> <p>前年大評判! 体験授業 14:05~14:50</p> | <p>先輩・教員との談話室 13:00~15:45</p> <p>ご家族もどうぞ! フードリンクコーナー あります♪</p> | <p>先輩・教員との談話室 13:00~14:50</p> <p>ご家族もどうぞ! フードリンクコーナー あります♪</p> | <p>サークル活動紹介 13:00~14:50</p> <p>手話サークル ・かんきもん ご家族もどうぞ!</p> | <p>休憩室 13:00~15:45</p> <p>学部紹介 ・福祉の仕事 などDVD上映 ご家族もどうぞ! フードリンクコーナー あります♪</p> |

体験授業①
10:25~11:10 (E102)
杉原 俊二 先生
「わかりやすい
児童・家庭福祉論」

体験授業②
14:05~14:50 (E102)
山村 靖彦 先生
「地域の魅力と地域福祉」

社会福祉学部見学ツアーを開催!!
見学受付: 社会福祉学部棟 1階 E103 「教員・先輩との談話室」コーナー

2014年8月31日(日)
受付:9時~(随時)
共用棟1階ロビー

Open Campus 2014 社会福祉学部

| 共用棟(0階) | 社会福祉学部棟(E棟) | | 看護福祉棟(F棟) | |
|--|---|---|--|--|
| 大講義室 (2階) | E102 (1階) | E103 (1階) | E101 (1階) | 介護実習室 (F棟1階) |
| <p>学部全体説明会 9:30~10:10</p> <p>大学の授業を受けてみよう!</p> | <p>前年大評判! 体験授業 10:25~11:10</p> <p>大学の授業を受けてみよう!</p> | <p>大学生活や資格など何でも聞いてみよう!</p> <p>先輩・学生との談話室 9:30~12:00</p> | <p>サークル活動紹介 9:30~12:00</p> <p>・いけとべ! ・手話サークル</p> | <p>介護実習室 見学 9:30~12:00</p> <p>介護の楽しさにふれてみよう!</p> |
| <p>9月3日と同じ内容です</p> | <p>前年大評判! 体験授業 10:25~11:10</p> | <p>大学生活や資格など何でも聞いてみよう!</p> <p>体験授業 10:25~11:10</p> | <p>サークル活動紹介 9:30~12:00</p> <p>・いけとべ! ・手話サークル</p> | <p>介護実習室 見学 9:30~12:00</p> <p>介護の楽しさにふれてみよう!</p> |

体験授業
10:25~11:10 (E102)
山村 靖彦 先生
「地域の魅力と地域福祉」



高校生のための 公開講座 2014

2014年8月2日(土)
10:00 ~ 16:00

社会福祉士
生活に困難をかかえる人々の相談に応じ、解決に向けて支援を行う専門職

精神保健福祉士
こころの病を負った人々に対し、知識と技術を用いて相談支援を行う専門職

介護福祉士
日常生活に支援のあつる人々に対して、社会生活が営めるよう支援を行う専門職

**就職率
100%**
(2013年卒業生)

高知県立大学は2011年度より男女共学となりました

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です。
さらに、西日本でただ一つ、3福祉士資格に対応した公立大学となりました。4年間で、2種類の国家資格を取得することが可能です。
未来のプロフェッショナルを育てる高知県立大学の雰囲気、この夏、体験してみませんか？

第15回高校生のための公開講座
2014年度のLINE-UP!

| | |
|--------------------------------------|---|
| 8月2日(土) 10:00~16:00(終了後アンケート) | |
| | 【池キャンバスへのアクセス】バス：土佐電ドリムサービス 高知県立大学・医療センター前 高知駅前 はりまや構 高知医療センター 高知県立大学 9:10 → 9:17 → 9:38 → 9:40 料金は400円 340円 |
| 10:00~ | 【開講式】高知県立大学社会福祉学部の紹介 (宮上 多加子 学部長) |
| 1時限 10:20~11:50 | 【講座①】社会福祉士に関わる授業 「ソーシャルワーカーとして働くこと～生活を支える専門職～」 (加藤 由衣 助教) |
| 昼休み | 11:50~12:50 |
| 2時限 12:50~14:20 | 【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「精神保健福祉士のしごと～自分を道具に?～」 (稲垣 佳代 助教) |
| 3時限 14:30~16:00 | 【講座③】介護福祉士に関わる授業 「介護のこれまで、そしてこれから」 (黒田 しづえ 准教授) |
| | 【池キャンバスからのアクセス】バス：土佐電ドリムサービス 高知県立大学・医療センター前 高知県立大学 高知医療センター はりまや構 高知駅前 16:46 → 16:50 → 17:13 → 17:18 料金は340円 400円 |

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。あらかじめご承知おきください。

【会場】看護福祉棟 F110教室(予定)

- 8月2日(土)は学内の売店・食堂が休業しております。
各自で昼食をご準備ください。
- 3時限終了時の簡単なアンケートにご協力ください。
- 翌8月3日(日)は高知県立大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)。こちらにもぜひお越しください。



健康長寿センター

井上 健朗

○活動内容

1. 健康長寿センター 運営委員会

全学での運営委員会として、平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までに、計 11 回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（福間・井上・橋本・二本柳）・総務部企画課健康長寿担当者

3. 平成 26 年度活動実績

・社会福祉学部がかかわった主なもの

①社会福祉リカレント教育講座

②健康長寿センター体験型セミナー 社会福祉学部主催 イン土佐山

③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については 4 名の教員による講座を行った。ケアマネジメント技法の習得にかんすること、医療と地域包括ケア、介護用具と介護技術、困難事例とスーパービジョンに関することなど現任者に関心の深いテーマで講座を維持し、参加者には好評を得た。

②体験型セミナーを土佐山地区で行った。医療との上手なつきあい方をテーマに医療ソーシャルワーカーを講師にお招きして、住民との対話形式の講座を行った。参加者には好評を得ることができ、地域の保健・医療・福祉の実践者との貴重な交流の機会ともなった。健康福祉センターや民生委員の方々の協力を得てチラシの個別配布など住民への周知を図ったが、せっかくの講座開催でもあるので PR の方法や時期に関して、工夫が必要と思われた。

③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

地域ケア会議の運営について看護学部・健康栄養学部の先生達とともに実際に地域ケア会議に参加し、その運営の目的や方法について考える機会を得ている。今年度は大分県の杵築市の地域ケア会議の視察を土佐市の地域ケア会議メンバーとともにいった。保険者としてのケア会議への参加姿勢の明確化など大いに知見を得る機会となった。この事業は次年度も継続されるので、事業、研究と両面での成果を求めていきたい。学部内への成果の周知が充分なされていないのでこの点は時期の検討課題となる。

委員会活動報告書（健康長寿センター）

健康長寿センター実施事業（社会福祉学部関連）

①リカレント教育講座

| | | |
|-------|--|-----|
| 10/4 | リカレント教育講座-ケアマネジメントの「中核技術」を測る:Work Index を用いた自己研鑽 | 29名 |
| 10/11 | リカレント教育講座-「病院」と地域包括ケア:多職種連携を手がかりに | 48名 |
| 11/1 | リカレント教育講座-腰痛予防対策指針の改定とリフトの導入 | 15名 |
| 12/6 | リカレント教育講座-複雑事例へのチーム・アプローチ再考:社会福祉専門職間の連携を中心に | 13名 |

②体験型セミナー

| | | | |
|------|---------------------------------------|--------|-----|
| 10/4 | 看護学部企画健康長寿体験型セミナー（大川村） | 看護学部 | 49名 |
| 11/9 | 健康長寿センター体験型セミナーin 津野町 | 健康栄養学部 | 87名 |
| 2/11 | 健康長寿センター体験型セミナー(社会福祉学部)「上手な医療との付き合い方」 | 社会福祉学部 | 29名 |

資料① リカレント教育講座 チラシ

高知県立大学社会福祉学部
リカレント教育講座
-知のフィールドへの招待-

| | |
|--|---|
| 10月4日(土) 13:30~15:30 共用棟2階 大講義室 | 現在ケアマネジメントは高齢者・障害分野のみならず、多くの領域で活用されており、ソーシャルワーカーにとっても必須の技術となってまいりました。しかし、その教育課程はというとまだ十分とはいえず、ケアマネジメントを使いこなすためには一定の技術が必要であり、ケアマネジメント技術の向上に向けた取り組みを考えていくことが、多くの事業所で求められるといえるでしょう。 |
| ケアマネジメントの 「中核技術」を測る -Work Indexを用いた自己研鑽 助教:二本柳 寛 (定員:100名) | 本講座では、ケアマネジメント技術向上にむけた取り組みの一つとして、ケアマネジメント技術作業指標(Work Index)を取り上げ、ケアマネジメント技術を「測る」ことについて考えたいと思います。 |
| 10月11日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟1階 F110 | 医療機関の機能分化が推進され、地域では包括ケアの展開が模索されています。「一病院完結型」の医療から地域完結型医療へ移行する中で、支店の「標準化」および機能転移が重視されるようになってまいりました。医療と福祉が抱える共通の問題など社会的背景を理解しながら、「病院」と「地域包括ケア」のことを考えてみたいと思います。包括的ケアにおいては、個別や制度制約的な支援が強調されています。地域には、ひとつの機関や職種が問題を担え込むことでは対応できない多様な「富んだ問題」が待たれ待ちであるからです。医療・福祉の各領域で専門職に対し、「ジェネラリスト」としての実践が求められるようになってまいりました。「多職種連携」を手がかりに「病院」と「地域包括ケア」の今を考えてみませんか。 |
| 「病院」と地域包括ケア -多職種連携を手がかりに 講師:井上 健朗 (定員:100名) | |
| 11月1日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟1階 F109/F110 | 4日以上の休業を要する障害は、職業性疾患の6割をも占め、そのうち社会福祉施設が19%、この10年で2.7倍に増加していると報告されています。障害予防対策は、介護福祉事業に従事するものにおいて、重要な課題となっています。 |
| 腰痛予防対策指針の改定と リフトの導入 講師:三好 弥生 (定員:20名) | 平成25年厚生労働省は、「職場における腰痛予防対策指針」の改訂を行いました。腰痛発生状況や腰痛予防対策の現状、今回の指針改訂のポイントなどをみていくと同時に、積極的な利用が推進されている「リフトの活用」について考えます。また、後半は、リフト操作及びリフト利用体験をしたいと思います。 |
| 12月6日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟1階 F110 | 社会福祉の実践現場でも、教育・研究の場においても、チーム・アプローチや連帯に関連するテーマは引き続きあり続けられ、掘り込まれていく。換言するならば、重要視されている共通課題はあるものの、それを利用者の生活支援における現場の産業へと結びつけることがいかに難しいかをあらわしているとも言えるのではないだろうか。 |
| 複雑事例へのチーム・アプローチ再考 -社会福祉専門職間の連携を中心に 教授:丸山 裕子 (定員:30名) | 研究や教育・実践現場等でも、チーム・アプローチの方たちとの交流から、近年では、困難事例や多職種連携と表現される多様な問題が複雑に絡み合い、既存する制度やサービスのみでは、問題の解決や解決が難しい事例への支援がソーシャルワーカーに求められているとの印象を強く感じています。 |
| | 本講座では、複雑事例へのチーム・アプローチについて、そこに様々な立場でかかわる社会福祉専門職間の連帯に焦点をあて、一緒に考えてみたい(演習形式)と思います。 |

健康長寿センター事業

高知県立大学社会福祉学部

リカレント教育講座

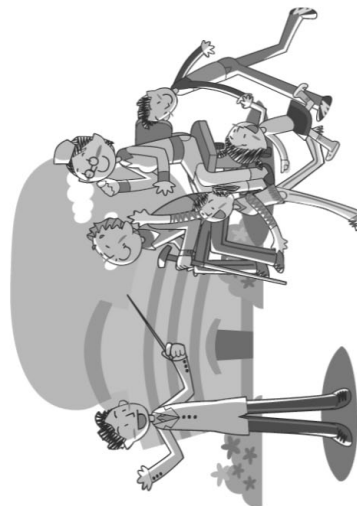


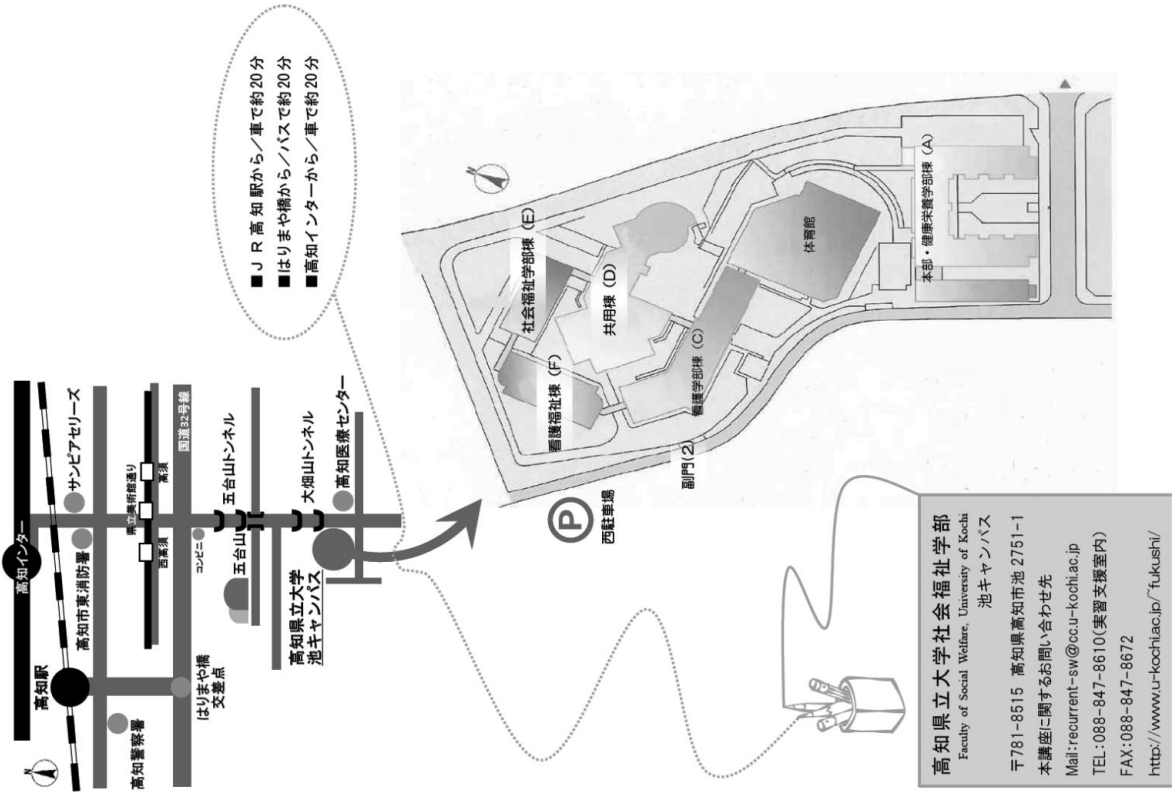
知のフィールドへの招待
2014

開催日

- 10月4日(土)
- 10月11日(土)
- 11月1日(土)
- 12月6日(土)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国内唯一の公立大学であり、西日本の公立大学ではただひとつ、三福祉士資格に対応しています。





ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部
学部長 宮上多加子

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。
 本学は平成23年度より高知県立大学に名称を変更し、男女共学化となり4年目に入りました。特に本学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員し、3つの福祉士国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応したカリキュラムでスタートしています。今後これまでのface-to-faceのきめ細やかな教育を継続し、専門職養成の重の確保及び質の向上を目標に取り組みたいと考えております。

今年度のリカレント教育講座につきましては、社会福祉学部の新任教員や例年好評をいただいている教員が担当し、地域・保健・医療・福祉に携わる専門職の方々や地域にお住まいの皆さまへ向け、社会福祉に関する4つのテーマで講演や演習形式の講座をご用意しています。

お気軽にご参加いただき、日頃の実践に多少なりともお役に立てれば幸いです。

学 界 界

講師プロフィール

| | |
|--|--|
| 二本柳 寛(助教) ケアマネジメントの「中核技術」を測る - Work Indexを用いた自己研鑽 | 高知県立大学社会福祉学部社会福祉学科 助教。修士(福祉マネジメント:日本福祉大学)。日本福祉大学社会福祉学部卒業後、精神科病院、就労支援施設、日本福祉大学などを経て現職。専門は精神保健福祉、社会福祉専門職教育。現在は、現場で活躍できるソーシャルワーカーを養成するための方法に関する研究を行っている。著書に「これならわかるくそッカリ図解」障害者総合支援法(共著、翔泳社)など。社会福祉士、精神保健福祉士。 |
| 井上 健明(講師) 「病院」と地域包括ケア -多職種連携を手がかりに | 高知県立大学社会福祉学部 講師 明治学院大学卒業。法政大学大学院人間社会研究科福祉社会専攻修士、修士(福祉社会)取得。多摩丘陵病院、天本病院、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院、昭和大学病院にソーシャルワーカーとして勤務。社会福祉士・精神保健福祉士。2014年4月より現職。著書に「多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整」(日経研究出版)共著「躍進するソーシャルワーク活動」(中央法規出版)共著 |
| 三好 弥生(講師) 医療予防対策指針の 改定とリアルの導入 | 立命館大学社会科学研究科博士前期課程修了(修士・社会学)。高知県立大学健康生活学研究所(在籍中)。看護師免許を取得後、京都府の一般病院、社会福祉協議会や高齢者福祉施設において、看護職、ケアマネジャーに従事。教員としては、花園大学社会福祉学部、聖心大学短期大学部において介護福祉士養成に携わってきた。2010年より現職、初めて関西から高知に赴任した。高齢者の看取り介護、介護職の医療的ケアについて研究を行っている。 |
| 丸山 裕子(教授) 複雑事例へのチーム・アプローチ -社会福祉専門職間の連携を中心に | 北海道出身。北星学園大学卒業後、四国学院大学大学院文学研究科社会福祉学専攻修士課程へ進学。北海道立菅原リハビリテーションセンター開設時から、精神医学ソーシャルワーカーとして約13年間勤務。この間1993年より大阪府立大学大学院社会福祉学研究所博士後期課程に在籍(1998年修了)、博士(社会福祉学)。大分大学、神奈川県立保健福祉大学、徳山学院大学教員を経て、本年度より現職。専門は、ソーシャルワーク論。新たな実践方法の「開発」(ソシヤルワーカーのコンピテンシーの開発)が現在的主たる研究テーマである。 |

平成 26 年度高知県立大学健康長寿センター

体験型セミナーin 土佐山

「上手な医療との付き合い方」

-頼る医療から活用する医療へ-

高齢化、多死社会、負担と給付の問題、病院の機能分化など、医療制度は大きな転換期にあります。これは私たちの生活に直結した課題でもあります。イザ、という時に困らないために、健康を維持するために、私たちのまちの医療を考えてみましょう。

高額医療費の制度が1月から変わっ
たらしいけど、医療費はどうなるの？

入院できる期間が短くなっ
たって聞いたけど・・・

難病の制度が
変わったみたい

内 容

1. 講演 「上手な医療との付き合い方」

-頼る医療から活用する医療へ-

講師 中本 雅彦 氏

高知県医療ソーシャルワーカー協会 会長

介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ 施設長

2. 体験コーナー

高知県立大学の看護学部、社会福祉学部、健康栄養学部による血管年齢測定、骨健康度測定、脳トレーニングゲーム、栄養相談、介護相談などの体験ブースを会場に設置します。

日 時 平成 27 年 2 月 11 日（水・祝）

午後 1 時 30 分から 3 時 30 分

場 所 土佐山健康福祉センター

高知市土佐山桑尾 1842-2

参加費無料

主催 高知県立大学 健康長寿センター

共催 高知市社会福祉協議会 北部高齢者支援センター出張所とさやま

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

井上 健朗

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成 26 年度は、昨年に引き続き共同研修会（上記事業 3）にあたる）を毎月 1 回、定期開催した（詳細は、次ページ参照）。また、本年度は看護局との共同研修会を開催した。この研修会には医療ソーシャルワークに関心をもつ本学学生も参加した。
2. ソーシャルワーカーと教員とによる共同研究（上記事業 4）にあたる）として、「特定妊婦に対するチーム・アプローチとソーシャルワーカーによる援助」を『ソーシャルワーク研究』 Vol.40 No.4 WINTER 2015 160 相川書房 誌上にて発表することができた。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

今後の課題としては、定例研修会のあり方の検討や内容の見直し、および新たな共同研究の実施に向けての検討等がある。具体的には事例検討・発表の内容および方法の検討や研究発表に向けての医療センターソーシャルワーカーと教員のプロジェクト作りなどがあげられている。

以上

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

| 回数 | 実施日(場所) | 参加人数 | 事業内容 |
|----|-----------------------------|------|---|
| 1 | 4月16日(水) やなせすぎ | 15名 | ①参加者自己紹介 ②研修報告 高知医療センター: ③本年度計画の確認 |
| 2 | 5月21日(水) 2階研修室 | 18名 | ①ブレインストーミング「変えたいと思っていること」 ②学会発表に向けた検討・情報交換 |
| 3 | 6月18日(水) やなせすぎ | 19名 | SWプレゼンテーション1 ①『高知医療センターのSWについて』 ②整形外科・血液内科・歯科口腔外科 ③循環器内科・心臓血管外科・腎臓内科・呼吸器内科・呼吸器外科・形成外科・皮膚科 ④消化器外科・泌尿器科・婦人科 |
| 4 | 7月16日(水) やなせすぎ | 18名 | ①SWプレゼンテーション2 1. 0番まごころ窓口 2. 脳神経外科 3. 消化器内科・耳鼻咽喉科 4. 産科・小児科 5. こころのサポートセンター ②『7年間をふりかえって』 |
| 5 | 8月20日(水) やなせすぎ | 22名 | ①県立大学教員の講義 『多職種連携での退院支援について』 :高知県立大学 井上健朗 ※フロア・外来看護師6名参加 |
| 6 | 9月17日(水) やなせすぎ | 14名 | ①事例検討 「本心がかめめないキーパーソンとの関わり～難渋した小児科ケース～」 |
| 7 | 10月15日(水) やなせすぎ | 15名 | ①当院における虐待対応委員会の活動 |
| 8 | 11月19日(水) やなせすぎ | 16名 | ①地域医療連携室看護師の業務について ②自治体病院学会報 |
| 9 | 12月17日(水) やなせすぎ | 15名 | ①『中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究』:県立大学 鈴木裕介 |
| 10 | 1月21日(水) 17:30～ やなせすぎ | 18名 | ①『小児慢性特定疾病・特定医療費(指定難病)・高額療養費の変更点について』 ※外来看護師2名参加 |
| 11 | 2月18日(水) やなせすぎ | 15名 | ①事例発表(県立大井上・医療センター藤井) ②『6年間を振り返って』 |
| 12 | 3月18日(水) やなせすぎ | 14名 | ①次年度の看護・社会福祉連携部会事業計画の確認 ②本年度の振り返り |

総務・予算委員会

山村 靖彦

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① 教授会の資料準備及び運営

- ・ 議題・資料の整理、議事メモの作成等を行った。

② 懇談会資料準備及び運営

- ・ 新規事業として月一回の懇談会を開催した。

③ 第20回 公立大学協会 社会福祉学系部会連絡会の開催

- ・ 11月8日に本学にて開催した。部会長校として事前準備・開催運営を担当した。

④ 福祉実習支援室、社会調査実習室等施設・備品の整備（情報処理部会関係含む）

- ・ 福祉実習支援室にカラー印刷機を新規導入した。
- ・ 講義受講者の増加に対応するために、大学事務と協力して社会福祉学部棟102及び103講義室に机と椅子の新規追加（計16セット）を行った。
- ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空きゼミ室や福祉調査実習室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、ハードディスク管理及びウィルス対策のソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

⑤ 学部日常事務の対応

学部事務職員の協力を得て、寄贈資料・手紙の整理、回覧などの仕事に対応した。

⑥ 平成25年度『社会福祉学部報』『学部パンフレット』発行

平成25（2013）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。また広報委員会との協力により、『高知県立大学社会福祉学部（学部パンフレット）』を一部改訂し1,300部を発行した。

⑦ 卒業生動向調査並びに卒業生を対象した各種案内の送付

実習委員会・全学キャリア支援部会・健康長寿センター委員・大学院学務と協力し、卒業生の動向調査・卒後のニーズに対するアンケート調査を行うとともに、リカレント教育講座や大学院案内等を卒業生に送付した。

⑧ 学生教育用図書・資料等の充実

- ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通して定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
- ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書を選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

2. 今後の課題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応等については、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。また、教員数の増加に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化・効率化等については引き続き検討していく必要がある。同時に、自習スペースの確保や、4回生の国家試験準備のための自習室の確保等、物理的な制約が多い課題が浮上しているため、空室の有効な活用等を検討していく必要がある。

国試対策ワーキンググループ

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策ワーキンググループは、西梅准教授、遠山講師、三好講師、鈴木助教、稲垣助教、加藤助教、二本柳助教、橋本助教の計8名で構成した。

（1）4回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤社養協などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

| 月 | 概要 | 備考 |
|-----|--------------------------------------|----------------|
| 4月 | 国家試験に関するガイダンス（4/8） | |
| 5月 | 国家試験に関するガイダンス（5/22）、国家試験関連参考書などの貸出開始 | |
| 6月 | 国試対策勉強会下見（6/5）、学内模擬試験（6/26） | |
| 7月 | 学内模擬試験（7/24） | |
| 8月 | 「受験の手引」解説（8/18） | |
| 9月 | 「受験の手引」解説（9/24） | |
| 10月 | 模擬試験（10/5）、受験対策直前web講座周知 | 模試（高知県社会福祉士会） |
| 11月 | 社士・精士模擬試験（10/31, 11/1）、国試対策講座 | 模試（福祉教育カレッジ） |
| 12月 | 国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談 | |
| 1月 | 国試対策勉強会（1/6～8）、個別面談 | 国試当日（1/24, 25） |
| 2月 | 自己採点集計（1/30） | |
| 3月 | 合格発表（3/13）、卒後の手続きに関する説明（3/19） | |

（2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（3）2014年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

| 総数 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|
| 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 89 | 57 | 64.0% | 70 | 50 | 71.4% | 19 | 7 | 36.8% |

〔福祉系大学等ルート：受験者10人以上〕

委員会活動年度報告書（国試対策ワーキンググループ）

合格基準点：88点（満点150点）

全国平均合格率：27.0%

合格順位：全国15位（総数）、全国22位（新卒のみ）／219校（総数での学校数）

※受験者50名以上の大学等では、全国3位／138校（総数）、全国3位／62校（新卒のみ）

2) 精神保健福祉士の合格率について

| 総数 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|
| 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 27 | 24 | 88.9% | 23 | 22 | 95.7% | 4 | 2 | 50.0% |

[保健福祉系大学等ルート：受験者10人以上]

合格基準点：91点（満点163点）

全国平均合格率：61.3%

合格順位：全国7位（総数）、全国16位（新卒のみ）／110校（総数での学校数）

※受験者20名以上の大学等では、全国2位／60校（総数）、全国1位／20校（新卒のみ）

○今後の課題

学部定員増と男女共学化に対応した国試対策への支援が今後も継続的に必要である。特に受験する学生については、必ず合格できるように、学部全体で働きかけることが求められると感じている。加えて合格ラインの見極めや在学中に合格できなかった卒業生への対応も課題となるだろう。そのため個別ではもちろん、年間の取り組みをシステム化して、可能な限り対応していきたいと考えている。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、国試の科目の中でも特に分かりにくい科目や、最新の動向を知っておく必要がある科目で、対策講座を開講してほしいという学生からの要望が強かったものを中心に、6名の先生方に11科目の講座をお願いしました。これまでの国試の出題傾向等を基に、重要なポイントを絞って講義をしてくださり、重点的に勉強すべき内容を捉えることができました。また、講義の内容に対応した分かりやすい資料を用意してくださっていたので、復習する際にとっても役立ちました。普段の授業とは違い、分かりにくいところをじっくりと教えて頂いたことによって、曖昧であった内容を確実な知識にすることができました。

また、対策講座は録画したものを借りることができるようになっていました。そのため聞き逃してしまった点や、体調不良等により欠席してしまった講座もDVDを見ることで受けることができました。

国試対策勉強会について

本年度、私たちは国家試験に向けて国試対策勉強会を合宿形式で高知県の町で行いました。自宅や学校とは違った環境に身をおき、勉強にのみ集中しました。自分一人では分からないことも、学部の友達と話し合ったり、応援に来てくださった先生に質問したりと、理解するまで話し合いました。朝から深夜まで机に向かい、食事の時はみんなと一緒におしゃべりをしながら息抜きをし、勉強のペースをつかむことができました。

合宿中は多くの先生方から、お菓子や温かい飲み物などの差し入れや激励をいただきました。合宿先の方々もサポートしてくださり、色々な方々が私たちを応援して下さいることがひしひしと伝わってきました。

合宿中に一番心強かったことは、一緒に勉強している友達の存在です。集中力が切れそうになっても、頑張っている友達の姿を見て、自分も「もっと頑張らなくては」と刺激を受け、集中して取り組むことができました。是非、後輩のみなさんも合宿に参加して、みんなと一緒に勉強に取り組んでみてください。

後輩の皆さんへ

国試や就活、実習、卒論などで4回生はとても忙しくなります。すべてのことを同時に行うことは難しいと思います。自分のペースを考えて、この時期はこれに集中するなど計画を立ててみるといいかもしれません。また、本学部の先生方はとても親身になって相談に乗ってくださるので、悩みや不安など些細なことでも話をしてみてください。話を聞いてもらうだけで、とても気持ちが楽になります。国試、卒論、就活をバランスよく行うのは大変ですが、成し遂げたことは、必ず将来へつながると思うので、あきらめず最後まで頑張ってください。

国際交流

留学生との交流

2014年6月2日、文化学部で学ぶ留学生を池キャンパスに迎え「池デイ」を開催しました（留学生：イタリア10名、台湾・中国2名）。

池キャンパス3学部合同での学生レクリエーションでは、社会福祉学部1回生が全体のリーダーとして企画・準備を進めていきました。入学して2か月足らずですが、他学部の上回生とも連絡を取り合いながら、留学生に楽しんでもらうための企画・運営を主体的に行うことができました。



（学生の感想）

- 池デイが終わるまで終始、緊張と不安だった。留学生が喜んでくれるのか、楽しんでくれるのか。たどたどしいながらも自分なりに考え、進行できたのは先生方、先輩方、委員や社会福祉学部1回生の理解と協力を得ることができたからだと確信している。みんなの笑顔を見ることができて本当に嬉しかった。
- 私はあの後、部活があって、永国寺キャンパスの体育館へ向かいました。すると、ちょうど帰ってきた留学生の方々に会いました。私は、短い時間しか一緒にいなかったから、どうせ覚えてくれてはいないだろう、と思って下を向いて歩いていましたが、向こうから「今日はありがとう」と声をかけてくれました！その彼は「今日は楽しかったよ」とも言ってくれました。その一言で、頑張ってたよかったです。また、変に遠慮をしてしまった自分が恥ずかしくなりました。今回の交流会で、相手に満足してもらおうと、いろいろ考えることは大事なことで、それが成功したときの喜びを学べたと思います。機会があれば、このような催しにこれからも参加したいです。
- 留学生の方たちとお話をする、一緒に昔の遊びをすることがとても楽しかったです。留学生の方たちがコマやおはじきで楽しそうに遊んでいる姿、そして一緒に楽しんでいる学生のみんなの姿が印象に残っています。
- 留学生の方たちとふれあうことで、他の国に対する興味や関心が大きくなりました。池Dayに来てくださった方、関わってくださった皆さん、ありがとうございました！



学外イベントへの参加

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2014年6月1日（日）、高知県立春野総合運動公園で開催された第16回高知県障害者スポーツ大会に、社会福祉学部の1回生73名がボランティアとして参加しました。

毎年開催されるこの大会は、県内から約1,300名の人に参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。

競技運営や表彰式のサポート、駐車場案内など、学生はそれぞれの役割を一生懸命こなしていました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。



第13回高知ふくし機器展に参加しました

「第13回高知ふくし機器展」が、高知県ふくし交流プラザで6月14日（土）・15日（日）の二日間にわたって開催されました。社会福祉学部1回生を中心に77名の学生が、ボランティアとして参加しました。

全国からのたくさんの来場者がいるなかで、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自具などを体験しながら学ぶ貴重な機会になりました。

2回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。



グローバルクラブ

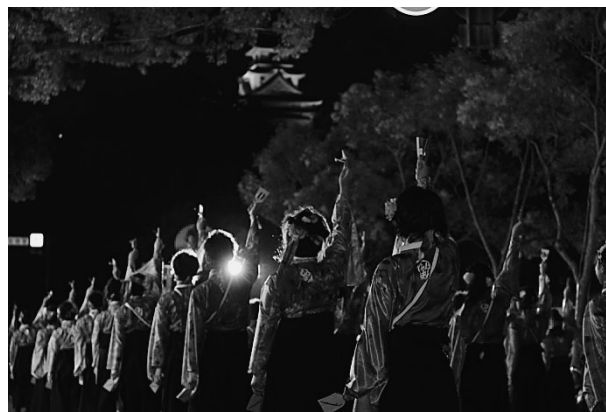
私たちグローバルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を3本柱として活動しているサークルです。みさとフェアなどの地域のイベントや、ボランティアに参加しています。

そのなかでも、グローバルクラブの活動の中心を担っているのが、よさこいチーム「高知県立大学グローバルクラブ J a p a r e a n」の運営です。このチームはグローバルクラブのメンバーがメインスタッフとなり、チームコンセプトの企画・立案から振りづくり、地方車の製作まで幅広い準備を行い、よさこい祭りの出場を目指します。今年度も、多くの方々からのご支援・ご協力に支えられながら、よさこい祭りまで準備を進めていきました。

2014年度のグローバルクラブ J a p a r e a nは「百華繚乱」というコンセプトで活動を行いました。たくさんの花が咲き乱れているような美しさの中に力強さを感じる踊りにしたいという思いが込められています。また、スタッフも踊り子の皆さんもよさこい祭りに出場する一人ひとりが主役であり、輝けるようにという思いも込めてあります。実際に本祭では、たくさんの笑顔を見ることができ、一人ひとりそれぞれの輝きとこのメンバーにしかできない踊りができたのではないかと思います。そしてこのコンセプトのもと、韓国からの参加者2名と高知県立大学の在学生や卒業生、また他大学や地域の社会人の方々と共に、本祭に出場し、無事2日間を踊りきることができました。笑顔と達成感で溢れた熱くてかけがえのない夏になりました。

J a p a r e a nの活動を通して、自分たちでチームを結成し、一つのものを作り上げていくことがいかに大変なことかを感じ、メインスタッフを務めるなかで、迷い、悩むことの多い日々でした。代々受け継いできた伝統の重みを大切にしたいという思いと、今年度のコンセプト「百華繚乱」にふさわしいチーム作りを、という思いの間で、何度も悩みました。そのような状況でも私たちがくじけずに活動が続けることができたのは、仲間、OGの先輩方、後輩たち、顧問の先生など、多くの支えてくれる人がいたからだと思います。チームを結成するなかで多くの方に出会えたことが何よりも大切な財産となりました。これからチームを主となって運営していく後輩たちも、支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、辛くて苦しいことから逃げずに向き合っていってほしいと思います。

最後に、いつもグローバルクラブの活動にご理解とご支援をいただき、大変感謝しております。これからも高知県立大学の1サークルとして、大学や地域に根ざした活動を進めたいと思います。どうぞご指導・ご支援のほどよろしくお願い致します。



太 鼓 部

今年度は2回生9名、1回生7名で活動しました。部員も増え、これまで以上に迫力のある演奏に磨きをかけています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。太鼓部創設時に比べると、社会福祉学部をはじめ大学全体の学生数が増え、キャンパスの増設やサークルの多様化・増加など太鼓部を取り巻く環境が大きく変化しました。体育館は学内のサークルだけでなく外部団体が利用されることもあり、練習場所・時間の確保が年々難しくなっています。体育館が使用できない時には、大学のある池地区の公民館をお借りして練習しています。

主な活動として、学校行事（入学式・卒業式・紅葉祭）、地域のお祭り、福祉施設のレクリエーション等に参加し、太鼓の演奏をさせていただきました。昨年度と比べると、演奏依頼が増え、より多くの方々に練習の成果を見てもらうことができましたと思います。

一つの曲を仕上げる際に、口伝（くでん：太鼓の演目には楽譜がなく、代々先輩から口伝で教えてもらっている）を覚えるだけでなく、叩き方にも磨きをかけ「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのために本番まで何度も話し合い、練習を重ねています。そういったことを乗り越えて曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくことが感じられます。また、訪問先の福祉施設や地域のお祭りでは多くの方に「来年も楽しみにしているね」と喜んでいただいています。地域との交流から私たちが得るものは多く、日々の練習の励みとなっています。



太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができます。さらにそれらの経験は大学を卒業した後も必ず役に立ちます。太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えるような会話文を考え、手話の本を中心に調べて学んだり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。また、クリスマス会などを開いて、手話を用いた簡単なゲームを行いながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、11月の紅葉祭、3月に行われた耳の日記念集会の主に2回です。今年度の紅葉祭は「となりのトトロ」、「空も飛べるはず（スピッツ）」に挑戦し、観客の皆さんにも一緒に手話をとおして参加してもらいました。耳の日記念集会では、高知県聴覚障害者協会青年部の方々と一緒に練習を行い、ステージに立ちました。また青年部の方々は、毎年交流会を行っており、今年度はフットサル、昼食を取りながらの雑談、耳の日に向けた練習をして楽しみました。青年部の方々との交流は、年々回数が増えていて、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、そして多くの学びがありました。今後も手話を通じたつながりを大切にして活動していきたいと思えます。

また同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在、社会福祉学部の学生が中心ですが、健康栄養学部や看護学部の学生も参加しています。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思えます。よろしくお願ひします。



いけとべ！

私たちは、日本で使われなくなった車いすを整備し海外旅行をする旅行者に手荷物として託し、発展途上国の病院や施設に送り届ける活動を行っている認定 NPO 法人「飛んでき！車いす」の会の活動に感銘を受け、「いけとべ！」として活動しています。

「いけとべ！」は、「日本で使われなくなった車いすを高知女子大学池キャンパスから発展途上国へ飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されたサークルです。



2014年度は、6月に高知ふくし機器展にて食べ物ブースを担当しました。毎年カレーを作って売っていましたが、今年は手作りのフランクフルトやフライドポテト、ドリンクを販売し、好評で完売しました。

今年度は、車いすを発展途上国に送り届けることができず、車いすのメンテナンスのみの活動となってしまいました。来年度は、車いすを発展途上国へ飛ばすということを目標に、学習会等を計画しながら楽しく活動を継続させていきたいと思っています。

現在部員数は4回生3名、2回生3名の計6名で、学生会館2階フリースペースにて車いすのメンテナンス等を中心に活動しています。今年度は昨年以上に学習会等の企画を取り入れながら、一台でも多くの車いすを飛ばせるよう、充実した活動を行っていききたいと思います。



イケあい

イケあい地域災害学生ボランティアセンターは、2011年に起こった東日本大震災を受け、来る南海地震に備えるということを目的として作られた防災サークルです。

現在、部員は文化学部、社会福祉学部、看護学部、健康栄養学部の学生約70名で構成されています。学内に向けた防災の啓発活動や、東北・広島の被災地視察を行ったり、地域のお祭りや運動会などを通して、地域の方々と顔の見える関係になれるよう日々ボランティア活動に励んでいます。

大学に近く、南海地震が起きた際に津波の被害が大きいとされている高知市三里地区では、7月に星空ビアガーデン、10月に三里区民運動会、11月にみさとフェアに参加し、地域の方々と交流を深めました。みさとフェアと、11月に黒潮町で行われた福祉祭りでは、岩手県の復興支援活動でつながった大槌産のわかめを使ったわかめご飯の無料炊き出しを行ったり、大槌おばちゃんクラブが作成したストラップを代理販売し、被災地と未災地をつなげる活動も行っています。

昨年、夏に発生した広島土砂災害では、災害の直後、街頭募金活動を行って集めた義援金と、約一週間かけて高知県内から集めたタオルを広島に送りました。翌月には、まず先遣隊3名が現地に足を運び、大学からの支援によってボランティアバスが出され、広島を訪れました。内容としては、被災地の視察、土砂で汚れた道路の清掃、世帯訪問、足湯ボランティアを行い、土砂災害の甚大さ、被災者の方に寄り添う難しさを一人ひとりが感じました。

また、イケあいは、第19回防災まちづくり大賞(消防庁主催)で消防庁長官賞を受賞しました。受賞の決め手となったのは、「大学生が接着剤・潤滑油となったコラボうさい(コラボレーション+防災)」で、学部の特性を生かした防災活動と、「女性と子供の視点」での避難所研修や女性参画の啓発などを行ったことが評価されました。昨年のぼうさい甲子園でのぼうさい大賞(兵庫県・毎日新聞社主催)に続く、2年連続の全国表彰となりました。この名誉ある賞の名に恥じぬよう、これからも防災活動に励んでいきたいと思えます。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。今年度のメンバーは社会福祉学部の3回生2名、2回生6名、1回生17名、健康栄養学部の3回生24名、4回生1名の合計50名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

- ・ 正面玄関や花壇の清掃
- ・ 花の植替え
- ・ 入院患者の入院室までの案内
- ・ 外来患者の案内
- ・ 図書サービス
- ・ 小児の見守りや作業
- ・ バザーの準備、当日の手伝いや片付け
- ・ クリスマスツリーの飾りつけや片づけ

などがあります。



同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当たっての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して、職員やボランティア関係者、患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

今年度は他学部との調整や研修の実施において、ボランティアに直接関係のないトラブルが発生してしまいましたが、それによりサークルとして成長できた年だったと思います。また2名の学生が、活動時間が多く、積極的にボランティアに参加したとして、医療センターから特別賞を受賞しました。これはサークルとして初めてのことであり、今後も活動する意欲へとつながることを期待しています。

来年度以降は、今年度の反省を活かし、メンバー全員がより積極的に活動に参加できるよう工夫して行きたいと思っています。

かんきもん

こんにちは！ボランティアサークル「かんきもん」です。かんきもんは4回生12人、3回生12人、2回生15人、1回生15人の計54人で「農家・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトのもと活動をしています。

現在のかんきもんは「援農隊」「YCPK」「傾聴」「学習支援サポーター」などの他、新たに「タウンモビリティ」を含めた活動を行っています。

「援農隊」は、毎年恒例の11月頃に柚子の収穫ボランティアに参加させて頂いています。収穫の際にお手伝いがほしいという方のもとへと行っています。また、平成26年度には西土佐地区大宮へ田植えと稲刈りに伺いました。

「YCPK(Young Crime Prevention in Kochi；若者防犯ボランティア in 高知)」では、高知県警の協力のもと防犯に関するイベントへの参加や小学生の下校の見守り活動、防犯パトロールなどを行い地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、活動をしています。

「傾聴」では、グループホームや一人暮らしの高齢者のお宅を定期的に訪問し、高齢者とのコミュニケーションを通して交流を図っています。

「学習支援サポーター」では、児童養護施設などの施設に訪問し、子どもたちの宿題などの学習面での支援をおこなっています。

「タウンモビリティ」では、主に身体障がいのある方を対象とした商店街での移動のサポートを行っています。

平成26年度には、高知県立大学主催の「立志社中」プロジェクトに参加しました。メンバーである学生それぞれがサークルの活動を通じて地域の活性化や地域共生を意識することができました。

また、ボランティアを通して学んだことや考えたことを立志社中の活動報告会で大学内外の方へと発信することができ、つながることの大切さを改めて感じる事ができました。

かんきもんのボランティアを通じて、自分自身の興味・関心のある分野を発見し、将来の進路を考える上での良い経験を得てもらいたいと思います。



ボランティア活動

鈴木 裕介

○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

○本年度のボランティア参加状況

| 日時 | 種別・主催者・企画名 | 内容 | 人数 |
|----------|-----------------------|------------------|----|
| 4月～2月 | 教育委員会 | プレイセラピーへの参加 | 10 |
| 4月～8月 | 児童養護施設 | 学習支援 | 4 |
| 4月26日 | 特別養護老人ホーム | レクリエーション | 27 |
| 5月10日 | 特別養護老人ホーム | レクリエーション | 16 |
| 5月18日 | 津野町内 | 茶畑ウオーキングを通じた地域交流 | 9 |
| 5月22日 | 津野町内 | 住民集会所を拠点とする地域交流 | 3 |
| 5月24日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 5 |
| 6月1日 | 第16回高知県障害者スポーツ大会 | 運営補助・競技補助 | 73 |
| 6月1日 | 津野町内 | 「長沢の滝」周辺清掃と地域交流 | 15 |
| 6月7日 | 病院 | 祭りの運営補助 | 8 |
| 6月8日 | 特別養護老人ホーム | 清掃 | 2 |
| 6月14～15日 | 第13回高知福祉機器展 | 運営補助 | 73 |
| 6月22日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 3 |
| 6月28日 | 特別養護老人ホーム | レクリエーション | 5 |
| 7月～8月 | 児童デイサービス | レクリエーション | 6 |
| 7月26日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの運営補助 | 13 |
| 7月26日 | 津野町内 | 住民集会所を拠点とする地域交流 | 5 |
| 8月1日 | 高知市内 | 地域夏祭りへの協力 | 6 |
| 8月13日 | 土佐町内 | 地域夏祭りへの協力 | 6 |
| 8月22～23日 | 土佐清水市内 | 地域福祉調査と地域交流 | 7 |
| 8月26日 | 障害者複合施設 | レクリエーション | 2 |
| 8月27日 | 市町村社会福祉協議会 | レクリエーション・学習支援 | 1 |
| 8月30日 | 障害福祉サービス事業所 | 祭りの運営補助等 | 2 |
| 8月31日 | 特別養護老人ホーム | 環境整備 | 1 |
| 9月8～11日 | 四万十川流域5市町連携学生キャンプ2014 | 運営補助・レクリエーション | 2 |
| 9月13日 | 生活介護事業所 | 祭りの利用者介助補助等 | 1 |
| 9月15日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 1 |
| 9月15日 | 高知市内 | JR高知駅前花壇整備 | 5 |
| 9月16日 | 津野町内 | 地域清掃と地域交流 | 5 |

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

| | | | |
|----------|---------------------|-----------------------------|------|
| 9月20日 | 障害者支援施設 | 祭りの利用者介助補助等 | 11 |
| 9月21日 | 土佐清水市内 | 地域福祉調査結果の発表と地域交流 | 7 |
| 9月23日 | 特別養護老人ホーム | レクリエーション | 1 |
| 10月10日 | 市町村社会福祉協議会 | 被災者支援 | 3 |
| 10月16日 | 市町村社会福祉協議会 | 被災者支援 | 2 |
| 10月12日 | 療育介護事業所 医療型障害児入所施設 | 祭りの利用者介助補助等 | 6 |
| 11月1～2日 | 第4回キッズバリアフリーフェスティバル | 運営補助 | 3 |
| 11月22日 | 特別養護老人ホーム | レクリエーション | 2 |
| 12月6日 | 第10回五色百人一首高知県大会 | 運営補助 | 4 |
| 12月19日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの運営補助 | 4 |
| 12月22日 | 市町村社会福祉協議会 | 高齢者宅訪問 | 4 |
| 12月26日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 1 |
| 12月26日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 4 |
| 12月26日 | 特別養護老人ホーム | 祭りの利用者介助補助等 | 1 |
| 1月7日 | 高知県内 | 演劇の運営補助 | 5 |
| 1月24～25日 | 安芸市内 | 地域福祉調査と地域交流 | 9 |
| 2月19日 | 奈半利町内 | 地域福祉計画地区計画作成の協力 | 5 |
| 2月23～24日 | 安芸市内 | 地域福祉調査結果の発表と地域交流 | 9 |
| 3月11日 | 本山町集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生の意見交換会・地域交流 | 7 |
| 3月13日 | 市町村社会福祉協議会 | 地域福祉計画地区計画作成の協力 | 6 |
| 3月15日 | 津野町集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生のワークショップ・地域交流 | 5 |
| 3月18日 | 土佐町集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生の意見交換会・地域交流 | 9 |
| 3月22日 | 安田町集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生の意見交換会・地域交流 | 5 |
| 3月24日 | 南国市集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生の意見交換会・地域交流 | 9 |
| 3月24～25日 | 三原市集落活動センター | 地域づくりに向けた住民と学生の意見交換会・地域交流 | 10 |
| 合計 | | | 448名 |

延 448 名がボランティアに参加した。ボランティア先は入所施設や地域活動が多い。ボランティア内容は、レクリエーション、施設が行っているお祭りの運営補助、地域交流である。

V

卒業論文題目一覧(2014年度)

平成26年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

| 教員氏名 | 題 目 |
|--------|--|
| 黒田 しづえ | 在宅高齢者の生活とバリアフリー ～天候と移動手段のバリアに目を向けて～ |
| | 在宅高齢者の生活と移動手段の関係性 －食事・生きがい・孤独感に焦点を当てて－ |
| 後藤 由美子 | 生活困窮者に対する自立支援の一考察 －高知県下の動向を踏まえて－ |
| | 施設入居高齢者の生活支援に関する一考察 ～夜間入浴に着目して～ |
| | 重症心身障害児・者の親の思いに関する研究 |
| | 独居高齢者への災害支援の一考察 ～高知県内最大の津波が予想された地域での取り組み～ |
| 杉原 俊二 | 10代で妊娠・出産をする母親への支援 |
| | 育児不安を持つ母親を対象とした地域での子育て支援 －子育てサークルに携わる職員へのインタビューを通して－ |
| | 児童養護施設入所児への学習支援の課題 －施設での取り組みを通して－ |
| | 児童養護施設入所後に起こる児童の問題行動に対する支援 |
| | 低所得世帯の子どもに対する学習支援 |
| | 乳幼児をもつ母親が抱える育児不安と児童虐待防止に関する一考察 －母子保健担当者のインタビュー調査を通して－ |
| 鈴木 孝典 | 軽度知的障害児者を同胞に持つきょうだいが進路の決定において受ける影響について －就労を決定する場面に着目して－ |
| | 高齢精神障害者のグループホームにおける支援課題 －家事支援に着目して－ |
| | 精神障害者の一般就労における生きがいの変化について －キャリア形成の支援との関係に着目して－ |
| 田中 きよむ | 市町村社会福祉協議会の広報活動における広報誌の機能 |
| | 集落活動センターを拠点とした住民主体の地域づくり ～住民の主体性形成と人材育成に着目して～ |
| | 住民主体の廃校活用 －意識と行動に焦点をあてて－ |
| | 生活困窮と社会的孤立の関係性、及び地域における包括的支援に関する一考察 |
| 遠山 真世 | 発達障害児の特性理解と支援についての一考察 －ADHD, LD児童に焦点を当てて－ |
| 長澤 紀美子 | サロン活動へ的高齢男性の参加促進のための働きかけについて |
| | 窮民救助法案が廃案となった背景に関する一考察 |
| | 公営住宅における高齢者の孤立への支援のあり方に関する一考察 －孤独感との関連性に着目して－ |
| | 在日外国人家庭の抱える問題に対する多文化ソーシャルワークの視点 |
| | 地域福祉コーディネーターが行う「つなぎ」としての役割 －サロン立ち上げ段階に焦点を当てて－ |
| | 離島の集落における福祉ネットワーク形成 －小地域福祉活動の実施をきっかけとして－ |
| 西内 章 | 医療ソーシャルワークの展開過程における鍵概念の研究 －インテーク・アセスメント局面を中心に－ |
| | 児童虐待における要保護児童対策地域協議会の支援体制に関する研究 －児童福祉主管課と関係機関間の連携に着目して－ |
| | 中山間地域における「地域への愛着」に関する研究 －高齢者及び保健・医療・福祉専門職の意識から－ |
| | 中山間地域の診療所に通院する高齢者の生活ニーズに対する意識の研究 |
| | 中山間地域の地域包括支援センターにおける介護予防事業の課題と取り組みに関する研究 －高齢者と包括職員の意識に着目して－ |

| | |
|--------|---|
| 西梅 幸治 | ケアハウスを利用する高齢者に対するストレングス・アプローチに関する研究 －生活相談員の関わりに焦点をあてて－ |
| | ソーシャルワーカーの成長過程における自己覚知の意義 |
| | 在宅緩和ケアにおける医療ソーシャルワークに関する研究 －高齢患者へのソーシャルサポートネットワーク構築に焦点化して－ |
| | 児童養護施設における虐待を受けた子どもへの支援方法に関する研究 －子どものレジリエンスに着目して－ |
| | 児童養護施設における高齢児童への自立支援に関する研究 －リビングケアに焦点をあてて－ |
| | 社会的養護の子どもに対するライフストーリーワークに関する研究 －子どもにもたらす影響と変化に焦点をあてて－ |
| 鳩間 亜紀子 | 介護支援専門員が行う家族介護者支援を巡る配慮に関する研究 |
| | 障害者が孤立に至った背景と課題に関する研究 －新聞報道にみる障害者・家族の孤立事例の検討－ |
| | 訪問介護における段階的な事故防止に関する研究 －利用者の入浴に関わる事例に着目して－ |
| | 訪問介護員が生活援助の際に行う、高齢者の自立を促すための工夫 |
| 福間 隆康 | 刑余者の刑務所出所後の成長欲求を満たすユニバーサル就労のすすめ －アルダーファアのERG理論に着目して－ |
| | 高齢者犯罪の地域移行に向けた一考察 －出所後の住宅確保と社会活動に焦点を当てて－ |
| | 知的障害者の一般就労における一考察 －農業に視点を当てて－ |
| | 日本の障害者雇用を促進させるために －民間企業に視点を当てて－ |
| | 発達障害児が再非行をしないためには －児童自立支援施設と分校における小中学校との連携に着目して－ |
| 宮上 多加子 | 介護福祉実習における学生が「生み出す」変化と「創り出す」変化 |
| | 聴覚障害をもつ高齢者に配慮された施設生活に関する一考察 |
| 三好 弥生 | 中山間地域高齢者の在宅での看取り支援の課題 －高知県の中山間地域に着目して－ |
| | 特別養護老人ホームにおけるエンド・オブ・ライフケア －介護職が行う死後のケアに着目して－ |
| 山村 靖彦 | 市町村社会福祉協議会の今後の展望 －社会的孤立への対応－ |
| | 社会福祉施設の名称に関する一考察 |
| | 施設の社会化をめぐる一考察 －高齢者福祉施設に着目して－ |
| | 犯罪者とは何か －社会福祉の視点から見た加害者－ |
| | 病院実習における学生の学びに関する一考察 －共通性と細部の違いに着目して－ |
| | 母子家庭の現状と課題 －母子自立支援員に焦点を当てて－ |

編集後記

社会福祉学部報第17号をお届けします。

平成26年度は、共学化して4年目となり、男子学生を初めて社会へ送り出すことができました。定員拡充以降、物理的な設備の充実など対応すべき様々な課題がありますが、学生の伸び伸びとした気風や先輩後輩間の和気あいあいとした関係をみると、これまで本学部で培われてきた伝統は確実に継承されているともいえます。従来からの特色であるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、学生の多様化に即した教育システムのあり方を今後とも考えていかなければならないと思っております。

また、地方創生がわが国のメインテーマとなりつつある今日、大学への期待はこれまでにない大きなものとなっています。地方公立大学の社会福祉学部として、また現代の社会福祉のありようを追究する一組織として、本学部に課せられている使命は決して小さくはないと考えております。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を果たし、多くの卒業生が様々な現場で活躍し、実習指導者や職能団体のリーダーとして学部生の良き模範となっております。今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 山村 靖彦

高知県立大学社会福祉学部報

第17号

発行日：2015年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

